

令和3年度 大阪緑涼高等学校 学校評価

1. 目指す学校像

1. 学ぶことの意義と楽しさを実感できる学校
2. 教養と知性の土台となる基礎学力をはぐくむ学校
3. 思いやりと礼節を重んじる心の教育を実践する学校
4. HR活動や学校行事・クラブ活動が活発で楽しく、成長できる学校
5. 生徒・保護者・教職員・地域が安心と信頼でつながりあえる学校
6. 南河内地域の豊かな自然や伝統・文化と出会い、学べる学校
7. 人が人として生きる権利が尊重され、いじめ・差別・暴力のない学校
8. 危機管理（新型コロナウイルス感染症対策・セキュリティ等含む）の重要性を理解し、安全のために予防対策を徹底して講じる学校

2. 中期目標

○学習指導

1. 新型コロナウイルス感染症の影響により失われた学習の機会を補てんしていく。
2. 全教員は教科の時間に責任を持ち、担任・学年・分掌との連携を密にする。
3. 授業やHRなどでの私語や居眠り、立ち歩き等の妨害行為は、他の生徒の学習権への侵害であることを理解させ、授業規律の確立に向けた指導を行う。
4. 全教員は常に自らの授業実践を相対化し、主体的・対話的で深い、魅力的な学びの機会となるよう研鑽を重ね、授業改善に取り組む。
5. 基礎学力の定着と向上を図るため、必要とされる生徒への補習体制を強化し、一定の基準を満たさない場合は必須の補習を実施する。
6. 生活と学びを通して生徒の共同的な関わりを創出し、集団への帰属意識の高揚を図る。
7. 各学科・コース目標の達成に向けた授業内容の検討と実践力量の向上に努める。
8. 英語検定・漢字検定・簿記検定など各種検定の周知徹底と合格への支援を一層充実させる。

○生活指導

1. 生徒一人ひとりをかけがえのない存在と認識し、分掌・学年・担任・クラブ顧問などが連携を深め、重層的で粘り強い指導を行う。適宜、校長・副校長・校長補佐・教頭に情報伝達し、特に生活指導担当の教頭と相談しながら組織として有効的な改善策を早期に講じる。
2. 遅刻や欠席が多い生徒については、生活の背景を含めて原因を分析し、保護者と協力・連携して克服につなげていく。また、必要に応じて相談センターなど公的機関とも連携し、サポートを行う。
3. 服装や髪型・化粧等に対しては、全教員が校則遵守の範囲を理解し、生徒達に意義を粘り強く説き、理解と納得を得られるよう努める。教員によって指導の基準や熱心さに差が出ないように生活指導部教員だけではなく全教職員が生活指導を行う。
4. 不登校や特別な支援が必要な生徒の特性を理解し、家庭とも連携しその発達課題に応じた丁寧な指導を行う。
5. コロナ禍であっても感染症対策に最大の注意を払い、学校行事を極力無くさない方策を熟考し前向きに検討していく。行事や生徒たちの自治的活動を通して、一人ひとりが自分と仲間の個性と価値に気づきあえるよう指導を行う。

○教員研修

1. 男女共学での教育・指導方法については日々の実践を通じて検証し、新しい本校教育の確立を目指す。
2. 本校の教育に必要なテーマについて適宜、校内での研修会を開催し、外部の研修・研究会にも参加する。教科やコースでも適宜、勉強会等を開催し、積極的に参加し、教育力・指導力を高める。特に外部の研修・研究会に参加した際には、適宜、関係する教科・コース・学年・分掌・管理職に資料や情報を伝達し、最新の知識を学校として共有できるようにする。
3. 公開授業や授業参観・授業アンケートを実施し、教科会などで現状把握・分析・検討を行い、教育内容をより充実したものへと改善・充実・発展を図る。
4. 保護者アンケート・生徒アンケートの結果を真摯に受け止め、改革・改善に努める。
5. 教科は、大学入学共通テスト・新カリキュラム実施も視野に入れながら、生徒たちの習熟をあげるPDCAを学期毎に策定する。定期的な教科会で確認し、成果と課題の確認を行う。
6. 各コースは、目標の達成に向けた授業内容の検討と実践に努めるため、PDCAを学期毎に策定する。定期的なコース会議で確認し、成果と課題の確認を行う。
7. 図書館の大改革を行い、生徒たちが行って楽しい・本好きになる創造の場へと変容させる。また、地域貢献の一環として絵本広場の定期的な開放や保育系進学コースの実習の場にも活用できるように検討を行う。

○進路指導

1. 生徒が自分自身の希望と適性、能力を把握し、「なりたい自分」に向けて具体的な進路選択が可能となるよう早期からサポートを行う。
2. 高校での学習や体験が卒業後の進路選択につながることを理解させ、学習意欲の向上を図る。
3. 系列大学との高大連携を進めるため、各大学の特色や魅力を具体的に伝え、進路選択の重要な柱として位置づける。
4. 指定校推薦・協定校推薦の充実が図れるよう大学・短大・専門学校との個別連携を深める。
5. 就職を希望する生徒のニーズを把握し、高卒求人の新規開拓・充実に努める。
6. 調理製菓科では現場のシェフやパティシエ・パティシエールを招いた授業を取り入れ、インターシップなどの参加を積極的に促し、ホテル・レストラン等と連携しながら生徒たちのキャリア育成を図る。
7. 生徒に不利益が生じないよう、進路に関連する書類については特に担任・副担任等のダブルチェックを行い、進路指導部と連携していく。

○地域連携

1. 生徒たちの学びと成長の場である藤井寺・春日丘地域を美しく保全するため地域清掃等に取り組む。
2. 水と緑の豊かなキャンパスを地元の保育園・幼稚園、親子散歩コースとして開放し、絵本読み聞かせ講座等を実施し、地域貢献を通して幼児教育の専門家を養成してきた藤井寺キャンパスの役割を継承する。
3. 課外活動・クラブ活動に地域の親子が参加するイベント等を行い、住民とつながることで、藤井寺・南河内に根ざし、なくてはならない学校として定着するよう取り組む。
4. 本校の教員が中心となって公開講座や講習を行う。
5. 藤井寺市との連携協定に基づいて、地域に学び・交流・貢献できる教育を推進する。
6. 生徒たちが、高校在学中に成人になるため、早期から藤井寺市の政策・事業について学び、審議会を傍聴すること等で、自覚や意識を高めていく。

○広報活動

1. 生徒が本校での生活を通して学び成長することが最大の広報活動であることを認識し、手厚い教育活動を行う。
2. 全教職員の力を結集しパンフレット・ホームページなどで本校の魅力を伝え、思いやりと礼節にあふれた対応で募集活動を行い、募集定員確保に努める。
3. 入試渉外・企画広報部担当者のみならず、全ての教員が広報活動に積極的に関わっていく。
4. 私学展やイブニング説明会等も教員が主体的に意見を出し合いながら実践し、本校の魅力を発信する創意工夫された募集イベントを行う。
5. 近隣中学校との連携をさらに強化し、地域に根ざした高校を目指す。
6. 募集定員を充足させるために関連することは、慎重・丁寧に情報共有・伝達しながら進めていく。
7. オンラインを使った広報活動も行き、アンケート結果を分析し、より有効な広報活動を展開させていく。

○その他の領域

1. 保護者会との連携をさらに強化し、保護者からの貴重な意見を教育・指導・広報に役立てていく。
2. 美化に繋がる方策を教職員と生徒で熟考し、新たな取り組みを実践していく。
3. 新型コロナウイルス感染防止・防犯等への対応を含めた健康管理に繋がる対策をさらに講じていく。
4. 教職員の健康保全・危機管理対策について常に留意しながら、適正に運用していく。
5. 教育的期待に応え、増加する募集定員の充足を果すために、構想した将来構想を教職員の知恵と協力を結集させて誠実に実践していく。

[自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見]

[自己評価アンケートの結果と分析(令和3年2月実施分)]	学校評価委員会からの意見																																																																																																																																		
<p>○あなたは本校に入学してよかった・子どもを本校に入学させてよかった</p> <table border="1" data-bbox="86 326 1045 489"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">生徒</th> <th colspan="2">保護者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>肯定的意見</td> <td>(2021年度)</td> <td>62.5%</td> <td>76.8%</td> <td>(2020年度)</td> <td>65.0%</td> <td>77.6%</td> </tr> <tr> <td>中間的意見</td> <td>(2021年度)</td> <td>25.4%</td> <td>17.9%</td> <td>(2020年度)</td> <td>23.6%</td> <td>16.9%</td> </tr> <tr> <td>否定的意見</td> <td>(2021年度)</td> <td>11.6%</td> <td>4.6%</td> <td>(2020年度)</td> <td>10.6%</td> <td>5.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>生徒・保護者ともに肯定的な回答が微減し、中間的な回答が増加している。後述する基礎学力回復・定着を図るわかりやすい授業づくりなどの学びの領域、進路指導に関する評価の高さ等を踏まえ3年生の高評価は例年通りだが、2年生の肯定的評価が低い。全校生徒の1割が否定的回答をしていることとも併せて、今後も本校教育の生命線でもある丁寧な生徒理解と粘り強い対応を今後も続け、学校全体としてどの生徒にも居場所のある、あたたかで行き届いた教育を進めていきたい。</p> <p>□学習指導</p> <p>○教員は、学習に関する質問や高校生活に関する相談等に丁寧に応じている</p> <table border="1" data-bbox="86 875 1045 1038"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">生徒</th> <th colspan="2">保護者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>肯定的意見</td> <td>(2021年度)</td> <td>69.6%</td> <td>69.8%</td> <td>(2020年度)</td> <td>70.0%</td> <td>71.2%</td> </tr> <tr> <td>中間的意見</td> <td>(2021年度)</td> <td>24.5%</td> <td>25.9%</td> <td>(2020年度)</td> <td>22.4%</td> <td>22.6%</td> </tr> <tr> <td>否定的意見</td> <td>(2021年度)</td> <td>5.5%</td> <td>4.1%</td> <td>(2020年度)</td> <td>7.6%</td> <td>6.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>昨年度と比較し生徒・保護者とも肯定的意見は微減だが、否定的意見も生徒・保護者とも微減である。コロナ禍による思春期の生徒に対する心理的・肉体的負担は想定以上のものとなっており、最も身近な相談相手として教員が果たすべき役割は今まで以上に高い専門性と見識が求められている。特に対人関係の構築に不安を抱えている生徒が年々増えており、社会や経済、地域の状況等生活背景を踏まえて生徒理解を深めよう学習・研究・研鑽に努め、組織としてより丁寧なケア的な観点を持った支援をしていく必要がある。</p> <p>○教員は、生徒の習熟度や様子を確認しながら、教科の目標に沿ったわかりやすい授業を行っている</p> <table border="1" data-bbox="86 1424 1045 1587"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">生徒</th> <th colspan="2">保護者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>肯定的意見</td> <td>(2021年度)</td> <td>62.2%</td> <td>59.3%</td> <td>(2020年度)</td> <td>69.5%</td> <td>61.7%</td> </tr> <tr> <td>中間的意見</td> <td>(2021年度)</td> <td>28.7%</td> <td>32.5%</td> <td>(2020年度)</td> <td>23.0%</td> <td>32.3%</td> </tr> <tr> <td>否定的意見</td> <td>(2021年度)</td> <td>9.1%</td> <td>8.2%</td> <td>(2020年度)</td> <td>7.3%</td> <td>5.8%</td> </tr> </tbody> </table> <p>昨年と比較して生徒・保護者とも肯定的意見は微減である。一人ひとりの学力の実態を把握し、「わかる授業」「対話的で深い授業」の実践を重ねてきたが、クラス・学年全体として生徒・保護者が求めるところには到達できていない。あらためてコロナ禍で個々が受けた学習機会の喪失を丁寧に補填し、学力の実態に沿った親身な指導を一層進めていきたい。</p> <p>○教員は、生徒の基礎学力の定着と向上を図る様に授業を工夫し、補習や個別指導を行っている</p> <table border="1" data-bbox="86 1899 1045 2062"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">生徒</th> <th colspan="2">保護者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>肯定的意見</td> <td>(2021年度)</td> <td>70.0%</td> <td>67.1%</td> <td>(2020年度)</td> <td>71.0%</td> <td>63.3%</td> </tr> <tr> <td>中間的意見</td> <td>(2021年度)</td> <td>25.8%</td> <td>26.9%</td> <td>(2020年度)</td> <td>23.4%</td> <td>30.2%</td> </tr> <tr> <td>否定的意見</td> <td>(2021年度)</td> <td>4.2%</td> <td>5.8%</td> <td>(2020年度)</td> <td>5.6%</td> <td>6.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>生徒の肯定的評価は本年度も7割を超え、保護者も微増となった。新入生に対する、中学既習範囲の学び直しから始まる各教科の取り組みは2年・3年でも丁寧に行われており、こうした学校の姿勢が高い肯定的回答につながっていると考えられる。本校教員による補習へと変換しているため、次年度への評価につながると期待している。</p> <p>○教員は英語検定や漢字検定など将来に必要な資格の情報を提供し、取得できるように指導・支援している</p> <table border="1" data-bbox="86 2374 1045 2537"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">生徒</th> <th colspan="2">保護者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>肯定的意見</td> <td>(2021年度)</td> <td>72.2%</td> <td>69.8%</td> <td>(2020年度)</td> <td>73.2%</td> <td>69.8%</td> </tr> <tr> <td>中間的意見</td> <td>(2021年度)</td> <td>24.9%</td> <td>23.7%</td> <td>(2020年度)</td> <td>20.7%</td> <td>25.4%</td> </tr> <tr> <td>否定的意見</td> <td>(2021年度)</td> <td>4.9%</td> <td>6.5%</td> <td>(2020年度)</td> <td>6.1%</td> <td>4.6%</td> </tr> </tbody> </table> <p>生徒・保護者とも、肯定的意見は昨年同様7割を超えている。放課後の英語検定対策講座、文理ハイレベルコースの対策授業に加え、英語科教員による個別指導が広がり、生徒・保護者の期待に応える対応が構築できつつある。全コースにわたって各種検定取得の優位性が周知された結果、受験数は増加傾向にあり、今後は合格率を高め、それぞれの指導内容の共有化を図り、質的向上を図っていききたい。</p>		生徒		保護者		肯定的意見	(2021年度)	62.5%	76.8%	(2020年度)	65.0%	77.6%	中間的意見	(2021年度)	25.4%	17.9%	(2020年度)	23.6%	16.9%	否定的意見	(2021年度)	11.6%	4.6%	(2020年度)	10.6%	5.0%		生徒		保護者		肯定的意見	(2021年度)	69.6%	69.8%	(2020年度)	70.0%	71.2%	中間的意見	(2021年度)	24.5%	25.9%	(2020年度)	22.4%	22.6%	否定的意見	(2021年度)	5.5%	4.1%	(2020年度)	7.6%	6.2%		生徒		保護者		肯定的意見	(2021年度)	62.2%	59.3%	(2020年度)	69.5%	61.7%	中間的意見	(2021年度)	28.7%	32.5%	(2020年度)	23.0%	32.3%	否定的意見	(2021年度)	9.1%	8.2%	(2020年度)	7.3%	5.8%		生徒		保護者		肯定的意見	(2021年度)	70.0%	67.1%	(2020年度)	71.0%	63.3%	中間的意見	(2021年度)	25.8%	26.9%	(2020年度)	23.4%	30.2%	否定的意見	(2021年度)	4.2%	5.8%	(2020年度)	5.6%	6.0%		生徒		保護者		肯定的意見	(2021年度)	72.2%	69.8%	(2020年度)	73.2%	69.8%	中間的意見	(2021年度)	24.9%	23.7%	(2020年度)	20.7%	25.4%	否定的意見	(2021年度)	4.9%	6.5%	(2020年度)	6.1%	4.6%	<p><入学してよかった></p> <p>前年度同様、保護者が本校教育へ高い信頼を表明していることは日常的に丁寧で親身な教育を積み重ねてきた成果であり、一定本校の評価として定まってきた。一方で1割の生徒は否定的意見を持っていることに、しっかりと留意し肯定的意見を伸ばすためだけでなく、否定的意見を少なくするためにも、生徒自身が成長を実感でき、「本校に入学して良かった」と感じる機会を、様々な場面において設定していく必要がある。3年生が前年度並みの75.9%が「入学して良かった」としているのは、本校の教育活動が3年という期間の中で生徒に伝わっていると思われる。これを維持しつつ、1年・2年という期間でより成長を感じられる教育のあり様を追求しなければならない。</p> <p><相談等に丁寧に応じている></p> <p>コロナ禍で生活や学習、友人関係に対する不安を抱える生徒に対し、丁寧な対応がなされた結果、生徒は肯定的意見が69.6%、中間的意見と合わせても94.1%と前年度より上回っている。コロナ禍が長期化する中で、生徒のストレスがより強くなっており、きめ細やかで思いやりあふれる対応をこれまで以上にはかる必要がある。その為にも、教員としての専門性を高めるための学習・研鑽に一層取り組むとともに、保護者への対応や発信を丁寧にしていく必要がある。</p> <p><授業のわかりやすさ・基礎学力の向上と定着></p> <p>個々の生徒に対する丁寧な対応には一定の評価を受けている一方で、教室で行われる一斉授業の形態では、生徒個々の要求を満たしきれっていないことがこの評価となっている。コロナ禍によって学びの機会を奪われた生徒に、何ができるか、何を学力として保証するか、今後、「誰ひとりも取り残さない」学校・授業を作り上げていくために、公開授業・参観日、校内研修会を開催し改善に努める他に、リモート型を含めて、官制・民間研修会や研究会・講演会などにも積極的に参加し、さらなる授業研究を進める必要がある。</p> <p><各種資格取得支援></p> <p>検定取得の有意・有効性について生徒に伝え、校内外での受験案内を行ってきたこと、放課後の英検対策講座や朝の漢検対策プリントといった活動が結果に表れている。また、大学の専門学科推薦入試や総合型選抜入試等で受験要件であることや学校推薦型選抜や一般選抜での得点換算等、優遇措置がとられている大学の情報も資料を配布して繰り返し説明した。</p>
	生徒		保護者																																																																																																																																
肯定的意見	(2021年度)	62.5%	76.8%	(2020年度)	65.0%	77.6%																																																																																																																													
中間的意見	(2021年度)	25.4%	17.9%	(2020年度)	23.6%	16.9%																																																																																																																													
否定的意見	(2021年度)	11.6%	4.6%	(2020年度)	10.6%	5.0%																																																																																																																													
	生徒		保護者																																																																																																																																
肯定的意見	(2021年度)	69.6%	69.8%	(2020年度)	70.0%	71.2%																																																																																																																													
中間的意見	(2021年度)	24.5%	25.9%	(2020年度)	22.4%	22.6%																																																																																																																													
否定的意見	(2021年度)	5.5%	4.1%	(2020年度)	7.6%	6.2%																																																																																																																													
	生徒		保護者																																																																																																																																
肯定的意見	(2021年度)	62.2%	59.3%	(2020年度)	69.5%	61.7%																																																																																																																													
中間的意見	(2021年度)	28.7%	32.5%	(2020年度)	23.0%	32.3%																																																																																																																													
否定的意見	(2021年度)	9.1%	8.2%	(2020年度)	7.3%	5.8%																																																																																																																													
	生徒		保護者																																																																																																																																
肯定的意見	(2021年度)	70.0%	67.1%	(2020年度)	71.0%	63.3%																																																																																																																													
中間的意見	(2021年度)	25.8%	26.9%	(2020年度)	23.4%	30.2%																																																																																																																													
否定的意見	(2021年度)	4.2%	5.8%	(2020年度)	5.6%	6.0%																																																																																																																													
	生徒		保護者																																																																																																																																
肯定的意見	(2021年度)	72.2%	69.8%	(2020年度)	73.2%	69.8%																																																																																																																													
中間的意見	(2021年度)	24.9%	23.7%	(2020年度)	20.7%	25.4%																																																																																																																													
否定的意見	(2021年度)	4.9%	6.5%	(2020年度)	6.1%	4.6%																																																																																																																													

□生活指導

○学校は、保健だよりや掲示等で保健室・カウンセラーの利用と健康促進を促し、生徒の健康維持を支援している

	生徒	保護者	生徒	保護者
肯定的意見	(2021年度 62.5%	67.9%	2020年度 65.4%	64.5%)
中間的意見	(2021年度 29.3%	28.1%	2020年度 28.8%	29.8%)
否定的意見	(2021年度 8.2%	3.8%	2020年度 5.6%	5.5%)

生徒に向けた親身でタイムリーな保健だよりやカウンセラーからの案内を発行し、健康促進を促している。健康調査カードの活用、手指洗浄と消毒、マスクの着用、フィジカルディスタンスなどコロナ感染拡大防止対策と罹患者、濃厚接触者などの情報について、教員、管理職、学校医との情報共有を図り、発熱生徒への対応等にも一人ひとりの状況に応じて、丁寧な対応を重ねてきた結果、クラスターと思われる事案は発生していない。また、不登校生等委員会での緊密な情報共有で、教員・保健室・カウンセラーの丁寧な相談と対応が可能になっており、その結果が生徒・保護者ともに肯定的回答の増加につながっている。今後も全教員が一人ひとりの生徒の健康状況に目配り、心配りにつとめ、保健室・カウンセラーと緊密な連携を重ね、より親身で手厚いサポートを行いたい。

○教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけでなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している

	生徒	保護者	生徒	保護者
肯定的意見	(2021年度 66.5%	63.2%	2020年度 65.8%	64.2%)
中間的意見	(2021年度 24.5%	30.3%	2020年度 24.0%	29.3%)
否定的意見	(2021年度 9.0%	5.0%	2020年度 10.2%	6.5%)

生徒の肯定的意見は微増、保護者は微減である。担任、副担任を中心に、朝終礼やホームルームの時間を出欠確認と連絡事項の伝達にとどめることなく、クラス独自の工夫された取り組みが定着してきており、生徒の評価につながっている。「担任を持つあなたへ講座」をはじめ、参考書籍の回覧や学年教員間での話し合いを通して、若い教員にも意欲的にクラス運営に向かう姿勢がみられ、それがこの分野での高い評価につながってきている。学校行事の運用も含めて「誰も取り残さないクラス」づくりに向けた教員と生徒とのつながり、生徒相互の関わりあいを作るための目当てと手だてについて、継続的に研修会等で学ぶ必要がある。

○緑涼祭や弁論大会、校外学習、芸術鑑賞、課外活動等、学校生活は楽しく充実している

	生徒	保護者	生徒	保護者
肯定的意見	(2021年度 55.2%	55.2%	2020年度 70.6%	70.2%)
中間的意見	(2021年度 28.2%	30.0%	2020年度 22.3%	23.8%)
否定的意見	(2021年度 16.6%	14.8%	2020年度 7.1%	5.5%)

コロナ禍で修学旅行、コーラス大会が中止、緑涼祭文化の部は映像作品鑑賞のみと、学校行事や部活等の課外活動には、厳しい活動制限が昨年度以上に加わる場面もあった。これが昨年度より肯定的な意見が大幅に下がった原因と考えられる。クラブ紹介の機会も十分確保できず、コロナ禍の不安もあり部活動への参加率も減少傾向にある。こうした活動の主役は生徒自身であり、企画立案から実行、総括までを経験させることで、成長する機会とすることができ、「入学してよかった」という実感・評価とつながっていく。社会的な状況を鑑みつつ、行事・クラブ活動などの充実を図っていく。

○教員は、充実したクラブ活動・生徒会活動等ができるように指導・支援している

	生徒	保護者	生徒	保護者
肯定的意見	(2021年度 59.0%	52.8%	2020年度 63.7%	60.8%)
中間的意見	(2021年度 31.4%	35.9%	2020年度 28.4%	30.7%)
否定的意見	(2021年度 9.4%	10.1%	2020年度 7.7%	7.3%)

コロナ禍で活動制限や徹底した感染防止対策に取り組んだことにより、クラブ活動、生徒会活動について生徒からの肯定的回答は減少している。従来以上にコミュニケーションを図ることが困難になり、活動そのものへの制限もかかる状況で、部活や生徒会の今日的な指導のあり方を質・量ともに向上させ、肯定的回答を再び60%に戻すことから始めなければならない。

○学校は、遅刻や身だしなみ・頭髪について、適切な指導を行っている

	生徒	保護者	生徒	保護者
肯定的意見	(2021年度 52.6%	60.3%	2020年度 57.3%	63.3%)
中間的意見	(2021年度 29.4%	29.1%	2020年度 25.7%	26.8%)
否定的意見	(2021年度 18.0%	10.6%	2020年度 16.8%	9.7%)

学校生活の基本に関わる指導事項を生徒に納得のいく丁寧な説明を重ねてきたが、その点に関する肯定的意見 52.6%は高い数字ではない。教師間で指導のばらつきがないか確認し、再度学校として適切な指導に取り組む必要がある。また、どこまで丁寧な説明を重ねてきたか、それ以上に遅刻や身だしなみ・頭髪の乱れの背景を聞き取りケアすることができていたか、この点もしっかりと振り返り、再び取り組む必要がある。

<生徒の心身の健康維持を支援>

体調不良を訴え早退したり欠席をした生徒に対しては保護者へ連絡を取り様態を確認するなど、細やかに保護者との連携を図った。保健だよりは管理職の助言も盛り込んで毎月定期発行されており、感染対策予防法の具体的なアドバイスなど時宜に見合った健康増進への啓発活動が取り組まれている。コロナ禍への対応は、いまだに継続している状態であり、保健だよりやさくら連絡網等を通じ、適宜情報発信と丁寧な対応を継続していかなければならない。また、コロナ感染症への不安と生活困難、家族関係の複雑さなどが相まって、以前にも増して心身の不調を訴え保健室へ来室する生徒は多い。心的不調や外科的治療を要する来室者と発熱を訴える生徒を分けて対応するために、各学年の教員と連携をとって、職員室での対応するケースも増えている。心的不調への対応するカウンセリングに関する案内を、保健だよりに毎回掲載するなどの対応が保護者の評価につながっていると思われ、今後も継続していく必要がある。

<生徒の理解やクラス作りの積極的取り組み>

コロナ禍でマスク着用となり、生徒の表情の変化が読みづらくなっているが、朝夕の SHR や LHR でクラス・生徒の些細な変化に気づける観察力と丁寧な心配りが欠かせない。担任、副担任、教科担当などの各教員が生徒の状況に目を配り、朝終礼や清掃など、あらゆる機会を生徒理解の機会としている。一方で、緑涼祭など自治的活動・課外活動については昨年度に比べ肯定的回答が大幅に減少した。やはり、こうした自治的活動の場をどのように担保していくかがまずは重要であり、そのうえで教員がどうリードし、生徒自身の動きと発想を引き出し、彼ら自身のものに育てていくかというテーマを教員が一層意識し研鑽を重ねる必要がある。

<行事の実施、クラブ・生徒会活動の支援>

各種の学校行事やクラブ活動、生徒会活動は、生徒たちに充実した高校生活を保障し、生徒の成長を促すうえで極めて重要であり、この部分の活動をいかに担保し、活動機会を設定・維持していくために様々に知恵を出し、実行していくことが大切である。ここまで、感染防止対策の元、制限せざるを得ない状況から、活動機会を少しずつではあるが進めてきた。今後より一層その歩を進め、各種行事やクラブ活動が日常的に実施できるよう計画を進める。また、中学校の段階でクラブ活動そのものを経験できなかった生徒が入学してきているという、これまではあまり考えることができない状況が発生していること踏まえ、加入率を高め、活動を活性化するための対策を立て、生徒自身が成長を実感し、充実した高校生活が実感できる活動をさせていきたい。

<学校生活における適切な指導>

生徒の肯定的回答が 5 ポイント減少、一方で否定的回答は微増という状況は、学校生活の基本である遅刻や身だしなみ、頭髪等について指導への理解は定着してきてはいるが、全教員が同様の基準で指導を行えたのか、生徒たちへなぜその指導を行うのか丁寧な説明がなされていたか、振り返る必要がある状況と考える。ただし、全体的な理解を得るに 30%を占める中間的意見の生徒たちへの説得を尽くし、納得を得る営みが欠かせない。今後も、より一層丁寧に粘り強い指導が求められている。

<p>○学校は、いじめ防止のためにアンケート等で実態を把握し、迅速に問題を把握するとともに、生徒には悩みを聞き、保護者と連携して丁寧な対応をしている</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>肯定的意見</td> <td>(2021年度 53.2%</td> <td>51.9%</td> <td>2020年度 57.6%</td> <td>53.1%)</td> </tr> <tr> <td>中間的意見</td> <td>(2021年度 36.4%</td> <td>40.7%</td> <td>2020年度 32.5%</td> <td>38.8%)</td> </tr> <tr> <td>否定的意見</td> <td>(2021年度 10.2%</td> <td>7.2%</td> <td>2020年度 9.5%</td> <td>7.6%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>いじめの実態解明と解決には教員と生徒・保護者との丁寧な連携や信頼関係が不可欠であり事象発生の背景を含め、深い生徒理解のための研鑽を重ね、そうした関わりを構築していきたい。生徒・保護者ともに肯定的回答は50%超であり十分とは言えないが、本校がいじめ問題や人権問題に真摯に取り組んでいることに理解と信頼が一定構築されてきている。今一度、アンケート実施後の連携体制強化と迅速な対応の重要性を全教員の共通理解としていく。</p> <p>○学校は、人権について生徒の意識が高まる様に講演会や日々の教育を通じて指導している</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>肯定的意見</td> <td>(2021年度 63.1%</td> <td>55.4%</td> <td>2020年度 63.4%</td> <td>55.4%)</td> </tr> <tr> <td>中間的意見</td> <td>(2021年度 29.8%</td> <td>39.0%</td> <td>2020年度 29.4%</td> <td>38.1%)</td> </tr> <tr> <td>否定的意見</td> <td>(2021年度 6.9%</td> <td>5.6%</td> <td>2020年度 7.0%</td> <td>5.8%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>生徒・保護者ともにここ数年、着実に肯定的回答が増加し、否定的意見が減少してきたが、一定評価は固まってきた。授業や総合学習やLHRを通じて、平和・ジェンダー・人権等についての本校の取り組みに対する理解と評価がうかがえる。建学の理念と合わせ、高い人権意識を有した「世に役立つ」生徒の人格形成を図るよう一層努める必要がある。</p>		生徒	保護者	生徒	保護者	肯定的意見	(2021年度 53.2%	51.9%	2020年度 57.6%	53.1%)	中間的意見	(2021年度 36.4%	40.7%	2020年度 32.5%	38.8%)	否定的意見	(2021年度 10.2%	7.2%	2020年度 9.5%	7.6%)		生徒	保護者	生徒	保護者	肯定的意見	(2021年度 63.1%	55.4%	2020年度 63.4%	55.4%)	中間的意見	(2021年度 29.8%	39.0%	2020年度 29.4%	38.1%)	否定的意見	(2021年度 6.9%	5.6%	2020年度 7.0%	5.8%)	<p><いじめ防止の取り組み・人権教育> 担任中心に学期ごとのいじめアンケート（1学期のみ無記名）と日常的な生徒の動向を把握し、その萌芽に気づき、適切な手立てをとることで、いじめなど深刻化する前に抑えてきている。保護者との連携を密にして信頼関係を構築し、生徒たちが相談しやすい環境作りに努めてきた。 コロナ禍において、罹患・濃厚接触等で差別的な対応をせず、当事者を慮る生徒が圧倒的であったことは、この間の取り組みの成果である。ただし、生徒・保護者ともにこの問題の性質上、一層の高い評価が得られるよう、地道な取り組みを継続する必要がある。</p>																				
	生徒	保護者	生徒	保護者																																																									
肯定的意見	(2021年度 53.2%	51.9%	2020年度 57.6%	53.1%)																																																									
中間的意見	(2021年度 36.4%	40.7%	2020年度 32.5%	38.8%)																																																									
否定的意見	(2021年度 10.2%	7.2%	2020年度 9.5%	7.6%)																																																									
	生徒	保護者	生徒	保護者																																																									
肯定的意見	(2021年度 63.1%	55.4%	2020年度 63.4%	55.4%)																																																									
中間的意見	(2021年度 29.8%	39.0%	2020年度 29.4%	38.1%)																																																									
否定的意見	(2021年度 6.9%	5.6%	2020年度 7.0%	5.8%)																																																									
<p>□教員研修 ○学校は建学の理念や教育目標をわかりやすく示し、教育に反映させている</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>肯定的意見</td> <td>(2021年度 56.5%</td> <td>60.1%</td> <td>2020年度 61.1%</td> <td>62.6%)</td> </tr> <tr> <td>中間的意見</td> <td>(2021年度 29.6%</td> <td>33.4%</td> <td>2020年度 27.3%</td> <td>30.9%)</td> </tr> <tr> <td>否定的意見</td> <td>(2021年度 13.7%</td> <td>5.8%</td> <td>2020年度 11.4%</td> <td>6.0%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>毎朝の正門指導でのあいさつ励行、始業式・終業式などでの校長講話を通して、建学の理念・教育目標は自身の体験や思いをこめた挿話とともにわかりやすく伝えている。今後も教育活動全般に対する活動制限はあっても、一人ひとりの生徒を思いやる教育活動を通して、生徒たちの認識に変化を促していく必要がある。</p>		生徒	保護者	生徒	保護者	肯定的意見	(2021年度 56.5%	60.1%	2020年度 61.1%	62.6%)	中間的意見	(2021年度 29.6%	33.4%	2020年度 27.3%	30.9%)	否定的意見	(2021年度 13.7%	5.8%	2020年度 11.4%	6.0%)	<p><建学の理念や教育目標の理解> 生徒・保護者とも本校の取り組みへの一定の理解は得られており、特に保護者の否定的意見は減少している。HPやさくら連絡網などを使用した様々な発信によると思われる。今後は、教育活動の隅々にまで建学の理念を浸透、具現化し、生徒がより具体的に実感できる取り組みを行う必要がある。</p>																																								
	生徒	保護者	生徒	保護者																																																									
肯定的意見	(2021年度 56.5%	60.1%	2020年度 61.1%	62.6%)																																																									
中間的意見	(2021年度 29.6%	33.4%	2020年度 27.3%	30.9%)																																																									
否定的意見	(2021年度 13.7%	5.8%	2020年度 11.4%	6.0%)																																																									
<p>□進路指導 ○教員は、進路について、総合の時間や個別面談を通じて情報を提供し、丁寧に指導している</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>肯定的意見</td> <td>(2021年度 71.1%</td> <td>69.5%</td> <td>2020年度 71.4%</td> <td>64.9%)</td> </tr> <tr> <td>中間的意見</td> <td>(2021年度 24.8%</td> <td>24.9%</td> <td>2020年度 23.8%</td> <td>28.6%)</td> </tr> <tr> <td>否定的意見</td> <td>(2021年度 3.9%</td> <td>5.1%</td> <td>2020年度 4.8%</td> <td>5.8%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>1・2年次は生徒一人ひとりの進路にかかわる興味関心や希望を引き出す総合学習を実施している。3年生の進路選択については4月の三者懇談から始まり、生徒一人ひとりに対して丁寧な指導を重ね、それぞれの進路希望を実現できるよう支援したことが高評価につながり、否定的意見は極めて少数となっている。特に就職はコロナ禍で採用募集が厳しいなか、企業訪問等丁寧に進路先を開拓するなど、親身で徹底した個別対応がなされたことが、生徒、保護者からの肯定的回答の増加につながっている。今後も、担任だけでなく、副担任、教科担当、進路指導部、教育アドバイザーが連携して一人ひとりの希望に応じたよりの確で、親身な指導を実現できるよう研修会等で教員の資質向上の機会を重ねる必要がある。</p> <p>□その他の領域 ○学校は学年通信やお便り、ホームページ等で、生徒・保護者への連絡や学校への様子をお知らせしている</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>肯定的意見</td> <td>(2021年度 72.0%</td> <td>83.3%</td> <td>2020年度 74.9%</td> <td>76.2%)</td> </tr> <tr> <td>中間的意見</td> <td>(2021年度 21.4%</td> <td>13.1%</td> <td>2020年度 20.5%</td> <td>16.9%)</td> </tr> <tr> <td>否定的意見</td> <td>(2021年度 6.6%</td> <td>3.6%</td> <td>2020年度 4.6%</td> <td>6.4%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>本校は大阪府外からの通学生を抱える調理製菓科をはじめ、通学区域が広域にわたっている。コロナ関連による緊急連絡だけでなく、保護者と共有したい生徒たちの学校生活の様子や課外活動での活躍などを、さくら連絡網も新たにツールに加えて保護者に適宜発信してきた。こうした取り組みに対して、生徒・保護者からの肯定的回答が高い水準にある。</p> <p>○学校は、施設設備を適正に整備し、下校時間やクラブ活動時間を決めるなど、高校生活に支障がないよう配慮している</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>肯定的意見</td> <td>(2021年度 63.6%</td> <td>68.1%</td> <td>2020年度 64.4%</td> <td>74.6%)</td> </tr> <tr> <td>中間的意見</td> <td>(2021年度 27.8%</td> <td>26.9%</td> <td>2020年度 27.5%</td> <td>20.8%)</td> </tr> <tr> <td>否定的意見</td> <td>(2021年度 8.4%</td> <td>5.0%</td> <td>2020年度 7.9%</td> <td>4.4%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>防音性、静粛性に課題があった3号館は二重サッシを入れる対応を行ったが、経年劣化による老朽化の進行は体育館・1号館ともに引き続き課題となっている。また、防災上からも一カ所から、全校に向けて一斉放送できる放送設備の改善が求められる。この後も安全な教育環境の維持に努め、生徒が安心して学習や課外活動に集中できるよう積極的に取り組んでいきたい。また、コロナ感染拡大防止のための方策に生徒・保護者の一層の理解が進むよう配慮する必要がある。</p>		生徒	保護者	生徒	保護者	肯定的意見	(2021年度 71.1%	69.5%	2020年度 71.4%	64.9%)	中間的意見	(2021年度 24.8%	24.9%	2020年度 23.8%	28.6%)	否定的意見	(2021年度 3.9%	5.1%	2020年度 4.8%	5.8%)		生徒	保護者	生徒	保護者	肯定的意見	(2021年度 72.0%	83.3%	2020年度 74.9%	76.2%)	中間的意見	(2021年度 21.4%	13.1%	2020年度 20.5%	16.9%)	否定的意見	(2021年度 6.6%	3.6%	2020年度 4.6%	6.4%)		生徒	保護者	生徒	保護者	肯定的意見	(2021年度 63.6%	68.1%	2020年度 64.4%	74.6%)	中間的意見	(2021年度 27.8%	26.9%	2020年度 27.5%	20.8%)	否定的意見	(2021年度 8.4%	5.0%	2020年度 7.9%	4.4%)	<p><丁寧な進路指導> 進路希望は情報提供にとどまらず、目標が具体化されていない生徒たちと粘り強く対話し、アドバイスを重ねることが求められる。その面倒見の良い進路相談を通して信頼関係を構築し、確かな選択へつなげていくことが必要である。今後も各科・各コースの生徒たち一人ひとりが希望する進路情報をきめ細かく提供、相談に応じることで希望進路の実現に向け取り組む。</p> <p><学校の様子をお知らせ> コロナ禍という状況も含めて、学校と生徒・保護者をつなぐために何をどう発信すべきか、全教員で考え合い、様々な対応をとった。従来の担任による電話連絡、ホームページによる発信のみならず、さくら連絡網など新たなツールを用いて学校から発信される情報・連絡が格段に増えた。また、感染防止の観点から保護者来校を制限せざるをえない状況で、個人情報に配慮しつつ、生徒たちの学びや緑涼祭などの諸行事、クラブ活動等での生き生きとした様子をホームページ・インスタグラム等で発信し続けた。今後も保護者に学校教育に関する情報を提供し、緊密な連携を図るため、あらゆるツールを積極的に活用して、より効果的に運用していきたい。</p> <p><施設設備の完全管理> 本校は校舎内外はもちろん、樹木の剪定やせせらぎや池の水質管理、清掃が行き届いている。生徒たちの使用状況も丁寧で、「思いやりと礼節」の浸透が感じられる。一方で、昨年度に比して生徒保護者の肯定的回答が減少しており、コロナ禍でのクラブや学校教育への活動時間制限等について、十分な理解がまだ得られていない可能性がある。今後も感染症拡大防止の取り組みとして、一定の制限は不可避であることから、生徒・保護者に向けて丁寧に説明を尽くしていく必要がある。</p>
	生徒	保護者	生徒	保護者																																																									
肯定的意見	(2021年度 71.1%	69.5%	2020年度 71.4%	64.9%)																																																									
中間的意見	(2021年度 24.8%	24.9%	2020年度 23.8%	28.6%)																																																									
否定的意見	(2021年度 3.9%	5.1%	2020年度 4.8%	5.8%)																																																									
	生徒	保護者	生徒	保護者																																																									
肯定的意見	(2021年度 72.0%	83.3%	2020年度 74.9%	76.2%)																																																									
中間的意見	(2021年度 21.4%	13.1%	2020年度 20.5%	16.9%)																																																									
否定的意見	(2021年度 6.6%	3.6%	2020年度 4.6%	6.4%)																																																									
	生徒	保護者	生徒	保護者																																																									
肯定的意見	(2021年度 63.6%	68.1%	2020年度 64.4%	74.6%)																																																									
中間的意見	(2021年度 27.8%	26.9%	2020年度 27.5%	20.8%)																																																									
否定的意見	(2021年度 8.4%	5.0%	2020年度 7.9%	4.4%)																																																									

[自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見]

3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

中期目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学習指導	(1) 新型コロナウイルス感染症の影響により失われた学習の機会を補てんしていく。	・教員への指導・周知を徹底 ・学び直しを含めたカリキュラムや放課後学習の検討 ・課題・補習による学習の担保	課題送付や補習の適宜実施 指導計画への反映	(1) 中学校の学習内容の学び直しや本校での学習内容の学び直しを行えるよう、教科でシラバスを策定・実施したり、放課後学習を設定したりしている。また、欠席が長期になる場合、家庭で学習できるよう、課題や授業内容（ノートのコピーや配布物など）を送付するとともに、登校再開後個別に学習する機会を設定してきた。この点が、学習に関する相談や補習・個別指導の評価につながっている。(5の評価に関連)
	(2) 全教員は教科の時間に責任を持ち、担任・学年・分掌との連携を密にする。	・教員への指導・周知を徹底	時間割変更の実施	(2) 出張・休暇について時間割変更を原則とし、変更ができない場合、代替授業・自習課題などで対応するなど、自習による学習の遅れを出さないよう対応をした。
	(3) 授業やHRなどでの私語や居眠り、立ち歩き等の妨害行為は、他の生徒の学習権への侵害であることを理解させ、授業規律の確立に向けた指導を行う。	・各教科担当からの指導の徹底 ・各担任が生徒・保護者への周知	授業内での指導の適宜実施 担任・学年との連携に基づく指導の実施	(3) 授業担当者による授業のありかたを説明するなかで、授業規律に関し指導を行うとともに、担任・学年とも連携して、クラスや生徒に対し適宜指導を行っている。また、授業アンケートの結果をふまえ、教務部や教科と連携し、授業担当者とクラスの状況を相談し、改善策等を検討するなど、規律の確立につとめている。
	(4) 全教員は常に自らの授業実践を相対化し、主体的・対話的で深い、魅力的な学びの機会となるよう研鑽を重ね、授業改善に取り組む。	・公開授業と授業参観の実施 ・管制・民間の実施する教員向け研修会への積極的参加呼びかけ	公開授業・参観の実施 教科会での検討 各種研修への参加	(4) 保護者対象の授業参観を1・2年生の保護者に対し実施した。1学期の公開授業では教科全員で授業を見学、2学期は全教員が公開・見学を行い、その後教科会議で、授業改善のために何が必要か討議する機会とした。また、各公開授業見学者にはアンケートの記載をお願いしており、教科担当が見学者と意見交換を行うなど改善活動を行っている。しかし、わかりやすい授業という点では生徒の評価は前年度より減少しており、学力や特性が異なる多様な生徒が教室で授業を受けるという「一斉授業」の形態において、より広範な「満足」をどのように感じさせるか、課題として更なる取り組みが必要である。【生徒の習熟度や様子を確認しながら、わかりやすい授業を行っている(2021 62.2%(生徒) 59.3%(保護者))(2019→2021(生徒) 55.8→69.5→62.2)】
	(5) 基礎学力の定着と向上を図るため、必要とされる生徒への補習体制を強化し、一定の基準を満たさない場合は必須の補習を実施する。	・欠点者補習の定期実施 ・本校教員による放課後学習 ・自習室の確保 ・生徒からの質問や個別学習	欠点者補習の実施 放課後学習の実施 自習室の確保 各生徒への対応	(5) 教務部が教科の要望も加えながら補習時間割を作成し、教科担当者と担任が対象生徒・保護者に周知を図った。「次につながる学びの機会」「わかる機会」というコンセプトのもと、学び直しや学習の方法を教授する場として活動してきた。また、放課後学習や個別指導を通じ学力の定着を図ってきた。この点が、基礎学力定着の評価につながっている。【生徒の基礎学力の定着と向上を図るよう授業を工夫し、補習や個別指導を行っている(2021 70.0%(生徒) 67.1%(保護者))(2019→2021(生徒) 62.4→71.0→70.0)】
	(6) 生活と学びを通して生徒の共同的な関わりを創出し、集団への帰属意識の高揚を図る。	・主に総合的な探究の時間において、藤井寺市との連携に基づいた活動の実施	総合的な探究の時間において地域に基づいた学習を協働で実施	(6) 総合的な探究の時間を活用して、地域と結んだテーマ設定を行った。主に2年生の地域と社会系統において藤井寺市の取り組みを学び、探究活動の1テーマとして設定した。また1年生において「モビリティ・マネジメント(交通環境学習)にかかわる学校支援制度」に本校の企画が採用され助成金を得たうえで、藤井寺市及び周辺における交通環境について、探究活動を実施、研究結果の報告を実施した。
	(7) 各学科・コース目標の達成に向けた授業内容の検討と実践力量の向上に努める。	・各コース、委員会の会議実施 ・公開授業や授業アンケートの実施と教科会での振り返り	各委員会の実施 公開授業後の検討	(7) 各コースで適宜コース委員会を実施し、主に各コース独自の取り組み(放課後学習や長期補習、保育実習や読み聞かせ等)について課題を検討し、実践に取り組んだ。また、各教科では公開授業や授業アンケートの結果を教科会で検討し、各コース目標達成に向け、授業改善に取り組んでいる。((4)(5)の評価)
	(8) 英語検定・漢字検定・簿記検定など各種検定の周知徹底と合格への支援を一層充実させる。	・朝の学習の時間を用いた漢字検定への取り組み実施 ・英語検定に対する放課後セミナーの実施	各検定に向けた取り組みの実施	(8) 英語検定について、文理ハイレベルコースでは科目授業として設置し、その他の学科・コースでは、外部講師による準2級、2級対象の放課後講座を開講した。また、漢字検定は教科による長期休暇での課題や朝の学習時間を活用した課題プリントの実施などを行った。このほかにも、授業での学習したことをふまえて、全国商業高等学校協会主催の簿記実務検定試験や情報処理検定への受検を促すとともに、希望者への補習を行った。生徒へは、教科や担任から繰り返し各種検定受検の重要性について話をしていたが、その意義はかなり浸透してきているが、そうした意義の浸透が合格率と直結していない。今後は受検者数を増やすとともに、合格者数を確実に増やす取り組みを強化しなければならない。【英語検定や漢字検定など将来に必要な資格の情報を提供し、取得できるように指導・支援している(2021 70.2%(生徒) 69.8%(保護者))(2019→2021(生徒) 64.9→73.2→70.2)】

生活指導	<p>(1) 生徒一人ひとりをかけがえない存在と認識し、分掌・学年・担任・クラブ顧問などが連携を深め、重層的で粘り強い指導を行う。適宜、校長・副校長・校長補佐・教頭に情報伝達し、特に生活指導担当の教頭と相談しながら組織として有効的な改善策を早期に講じる。</p> <p>(2) 遅刻や欠席が多い生徒については、生活の背景を含めて原因を分析し、保護者と協力・連携して克服につなげていく。また、必要に応じて相談センターなど公的機関とも連携し、サポートを行う。</p> <p>(3) 服装や頭髪・化粧等に対しては、全教員が校則遵守の範囲を理解し、生徒達に意義を粘り強く説き、理解と納得を得られるよう努める。教員によって指導の基準や熱心さに差が出ないように生活指導部教員だけでなく全教職員が生活指導を行う。</p> <p>(4) 不登校や特別な支援が必要な生徒の特性を理解し、家庭とも連携しその発達課題に応じた丁寧な指導を行う。</p> <p>(5) コロナ禍であっても感染症対策に最大の注意を払い、学校行事を極力無くさない方策を熟考し前向きに検討していく。行事や生徒たちの自治的活動を通して、一人ひとりが自分と仲間の個性と価値に気づきあえるよう指導を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職、各学年、保健室、カウンセラー、治療機関などとの連携 ・いじめ防止アンケート等による実態把握と迅速な対応 ・人権について日々の教育を通じて指導する <ul style="list-style-type: none"> ・始業式等での全校一斉頭髪指導の実施と改善に向けた継続的な指導 ・学年が集まる場面を利用した指導の実施 ・朝終礼での身だしなみの確認の実施 ・登下校時や校内での身だしなみの乱れに対するポイント制を用いた指導の実施 ・違反等指導が必要な生徒に対し、一義的に指導を行うのではなく、聞き取りも含め、背景を探りながら、丁寧に指導する <p>(1) (2) の内容に同じ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの感染防止に留意しつつ、行事を実施するよう計画を立案、実行に移す ・各行事を通して、生徒自身を考え、準備をするなど、生徒自身が活動していく場面が増えるよう、支援を行う 	<p>担任・学年・管理職・保健室・カウンセラーの連携を適切に実施 不登校委員会の定例実施 いじめアンケートの実施と対応 授業や探究の時間、朝終礼を用いて指導を行う</p> <p>全教員による同様の基準による指導と「納得得られる」指導の実践 指導が必要な時点で適切な指導を行う</p> <p>(1) (2) の内容に同じ</p> <p>感染防止に配慮しつつ、各行事を実施する。 生徒自身が自主的・主体的に活動できるよう支援する</p>	<p>(1) (2) (4) 登校時の指導、朝終礼、授業において生徒の反応や表情を丁寧に観察し、担任や教科担当、学年で欠席や遅刻の原因ともなる生徒の心身の状況の把握に努めた。また、保護者との電話連絡や家庭訪問などを通じ、家庭での様子の把握、学校での様子の報告を行い、保護者との共通認識を作ることに努めた。さらに、毎週、不登校委員会（管理職、養護教諭、カウンセラー、各学年担当）を開催し、不登校傾向のある生徒、疾患を抱える生徒、LGBTQなどで生きづらさを抱える生徒などの「気にかかる生徒」の状況について各学年と保健室、カウンセラーから詳細に報告し、情報共有を図った。精神的な不安定さが身体的不調となって現れるケースが目立っており、担任・養護教諭が家庭と連携を取り、必要に応じてカウンセリングや専門医による治療も視野に入れながら対応した。</p> <p>【学習に関する質問や高校生活に関する相談等に丁寧に応じている（2021 69.6%（生徒）69.8%（保護者））（2019→2021（生徒）61.0→70.0→69.6）】</p> <p>【人権について生徒の意識が高まる様に講演会や日々の教育を通じて指導している（2021 63.1%（生徒）55.4%（保護者））（2019→2021（生徒）58.0→63.0→63.1）】</p> <p>【朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけではなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している（2021 66.5%（生徒）63.2%（保護者））（2019→2021 58.0→66.0→66.5）】</p> <p>しかし、すべてのケースで連携体制の構築・教科、迅速な対応が十分であったと評価できないと思われる結果もあり、今後より一層、連携体制の構築や迅速な対応の重要性を意識しつつ活動していかなければならない。【いじめについて迅速に問題を把握するとともに、丁寧な対応をしている（2021 53.2%（生徒）51.9%（保護者））（2019→2021 48.0→58.0→53.2）】</p> <p>(3) 各学期初めの頭髪・身嗜み指導の実施、学年集会やLHRの時間を通じ生活指導部、担任が指導方針や校則について説明を実施するなど、繰り返し校則遵守について、生徒に話をしてきた。また、指導が必要な生徒については適宜指導するとともに、必要であれば個別に時間をかけて指導を繰り返し行っている。指導を行った場合は、保護者に連絡を取り協力を依頼するなど学校と家庭が連携し指導するよう取り組んできた。しかし、髪型や髪色、化粧、装飾具など指導課題を十分に克服したわけではなく、また、生徒の評価も十分な数字ではない。教員間での基準や指導にぶれのない、そのうえで生徒が自分の行いを内省できるよう、理解と納得を得させる指導のありかたを、引き続き検討・実践していかなければならない。【遅刻や身だしなみ・頭髪について、適切な指導を行っている（2021 53.0%（生徒）60.0%（保護者）（2018→2021（生徒）52.0→57.0→53.0）】</p> <p>(5) 修学旅行、コーラス大会、緑涼祭文化の部（映像鑑賞のみ）と学校生活では重要な行事が実施できなかった。また、校外学習も感染防止の観点から制約がかかった状態での実施となった。一方で弁論大会はリモートを利用して実施することができた。しかし、2年生として最大の行事である修学旅行と本校として伝統であるコーラス大会が実施できなかったことは、クラスとしての活動ができなかったことを意味し、生徒が自分と仲間の個性や価値に気づき、クラスで協働していく経験を得ることができなかったことになる。結果として生徒の肯定的評価も例年と比較しても大きな減少となった。やはり、行事を行っていくことが学校生活が充実したものとする重要な要素であることを再認識し、行事が行えるよう十分な準備をしていかなければならない。【緑涼祭や弁論大会、校外学習、芸術鑑賞、課外活動等、学校生活は楽しく充実している（2021 55.2%（生徒）55.2%（保護者））（2019→2021（生徒）73.0→71.0→55.2）】</p>
------	---	---	--	---

<p style="text-align: center;">教員研修</p>	<p>(1) 男女共学での教育・指導方法については日々の実践を通じて検証し、新しい本校教育の確立を目指す。</p> <p>(2) 本校の教育に必要なテーマについて適宜、校内での研修会を開催し、外部の研修・研究会にも参加する。教科やコースでも適宜、勉強会等を開催し、積極的に参加し、教育力・指導力を高める。特に外部の研修・研究会に参加した際には、適宜、関係する教科・コース・学年・分掌・管理職に資料や情報を伝達し、最新の知識を学校として共有できるようにする。</p> <p>(3) 公開授業や授業参観・授業アンケートを実施し、教科会などで現状把握・分析・検討を行い、教育内容をより充実したものへと改善・充実・発展を図る。</p> <p>(4) 保護者アンケート・生徒アンケートの結果を真摯に受け止め、改革・改善に努める。</p> <p>(5) 教科は、大学入学共通テスト・新カリキュラム実施も視野に入れながら、生徒たちの習熟をあげるPDCAを学期毎に策定する。定期的な教科会で確認し、成果と課題の確認を行う。</p> <p>(6) 各コースは、目標の達成に向けた授業内容の検討と実践に努めるため、PDCAを学期毎に策定する。定期的なコース会議で確認し、成果と課題の確認を行う。</p> <p>(7) 図書館の大改革を行い、生徒たちが行って楽しい・本好きになる創造の場へと変容させる。また、地域貢献の一環として絵本広場の定期的な開放や保育系進学コースの実習の場にも活用できるように検討を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・系列高校との学習・交流・見学や校内での講座・研修会を実施するとともに、官制・民間の各種教育研究会・教員研修会への参加案内と促進する ・コース会議や教科会、分掌会議でのフィードバックの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・各教員の公開授業や授業アンケート、学校評価アンケートの評価を基に、教科会で授業改善への検討を進める <ul style="list-style-type: none"> ・コース会議を適宜実施し、各コースの目標達成に向け、状況を確認し、課題の洗い出し、改善の方策を検討する <ul style="list-style-type: none"> ・図書館委員会を実施し、蔵書の内容等について検討し、改善していく ・生活指導部と連携して図書委員会を実施し、生徒による図書館利用の改善策を実行していく 	<p>各種研修会への参加と各会議でのフィードバックの実施</p> <p>公開授業の実施 各種アンケートの実施と分析 教科会・コース会議での検討</p> <p>図書館委員会の実施 教育内容・目標等に沿った蔵書の整理 図書委員による図書館利用促進運動の展開</p>	<p>(1)(2) コロナ禍で系列高校（大阪商業大学高校、大阪商業大学堺高校）での教育活動の見学・交流は出来ず、3高校合同教員研修会は開催できなかったが、コロナ関連の授業形態や進め方などについて、様々な機会に系列高校と連携して、本校の実態に即した教育のあり方、指導方法について情報交換を行い、活用してきた。年度初めの「初めて担任に取り組むあなたへ講座」は若い教員のみならず、学年主任やベテラン、管理職も含め10数人が参加し、従来の一方的な講演会型ではなく、取り組みも交えて、対話的に取り組まれた。生徒を迎え入れる準備、クラス作りに向けた行事のあり様などを検討する機会となり、一定の役割は果たしていた。授業のあり様はリモート型も含めた研修会参加、公開授業を積極的に活用し、各教科会議で研究授業の実践分析と検討を行える体制を構築した。校内研修会では、企画広報部による本校の各学科・コースの目標や特徴、新システムの説明を行い、全教員で共通認識を持つとともに、ICT機器を利用した授業のあり方を模擬授業形式で実施するとともに、生徒とのかかわり方についての講演を行うなど、本校の現状に即した研修を実施している。</p> <p>【生活指導領域 (1) (2) に関連】</p> <p>(3)(4)(5)(6) 休憩時間や放課後の個別対応や、本校教員による放課後学習の実施、コロナ等による長期の欠席について課題やノートの写し等の送付と復帰後の対応など、生徒個々の状況に合わせて基礎学力を定着させる活動を行っている。公開授業は、各教科で1ないし2名の授業を見学し、その後の教科会議で集団的に授業分析と検討を行うという形式を追加、全体として授業力の向上に取り組んだ。さらに「出前授業」「受け入れ授業」「オープンスクールでの授業体験」の機会をとらえ、若手教員も模擬授業づくりに取り組み、授業公開と合わせて、自らの実践を相対化する機会となり、授業スキル向上につなげた。アンケート結果を学校評価委員会で分析・検討し、課題を明確にした上で翌年度の取り組みに反映させてきた。今後もこのような取り組みを継続しつつ、個別の対応のみならず、教育活動の基本である「一斉授業」の形態での授業力向上は続けなければならない。また、こうした教科の活動の他にコース委員会を定期的の実施することで、コース目標の達成状況を把握するとともに、各教科との連携を今以上に強め、目標達成の一端をになう教科の活動をコースとしてサポートし、リードしていく体制づくりを進めていかなければならない。</p> <p>【学習指導領域 (3) (4)・進路指導領域 (1) (2) に関連】</p> <p>(7) 図書館委員会を開催し、各学年・教科・コース・委員会などから購入図書要望を募り蔵書を整える方法に前年度より変更した結果、現在の学科、コースの学びや目的にマッチした選書が行えた。さらに、学校図書館向けの選書用パンフレットを図書委員メンバーで回覧し、独自に購入図書を選ぶなど現場の声を反映することができた。授業時の利用も単に自習のみならず、保育系進学コースの読み聞かせに向けた取り組みや総合的な探究の時間における調べ学習での取り組みなど徐々に増えてきている。また、生徒会の図書委員会で推薦図書のPOPを作り展示することで、生徒視点での紹介を行うなど、生徒に身近な図書館となるよう取り組んでいる。</p>
---	--	--	--	---

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">進路指導</p>	<p>(1) 生徒が自分自身の希望と適性、能力を把握し、「なりたい自分」に向けて具体的な進路選択が可能となるよう早期からサポートを行う。</p> <p>(2) 高校での学習や体験が卒業後の進路選択につながることを理解させ、学習意欲の向上を図る。</p> <p>(3) 系列大学との高大連携を進めるため、各大学の特色や魅力を具体的に伝え、進路選択の重要な柱として位置づける。</p> <p>(4) 指定校推薦・協定校推薦の充実を図れるよう大学・短大・専門学校との個別連携を深める。</p> <p>(5) 就職を希望する生徒のニーズを把握し、高卒求人の新規開拓・充実に努める。</p> <p>(6) 調理製菓科では現場のシェフやパティシエ・パティシエールを招いた授業を取り入れ、インターシップなどの参加を積極的に促し、ホテル・レストラン等と連携しながら生徒たちのキャリア育成を図る。</p> <p>(7) 生徒に不利益が生じないよう、進路に関連する書類については特に担任・副担任等のダブルチェックを行い、進路指導部と連携していく。</p>	<p>・「総合の探究の時間」や HR を利用し、「なりたいジブン」に向けた大学・短大・専門学校の違いと選び方、学部学科選定、入試制度について周知を行う</p> <p>・学長講演や大阪商業大学教授による「ビジネスアイデア甲子園」講義、神戸芸術工科大学教授による講義の実施</p> <p>・協定校による様々な講義の実施</p> <p>・前年度の受験結果や系列校入試、指定校・協定校に関する情報など、様々な情報を早期に全体へ開示を行う</p> <p>・放課後学習や長期休暇時の補習の編成を工夫し、学習意欲及び学力の向上を図る</p> <p>・求人票の閲覧と新規企業への高校求人を出し依頼の強化</p> <p>・就職希望者に対する早期指導の実施（就職活動や就職試験に必要な力など）</p> <p>・閲覧しやすいファイルにまとめる</p> <p>・現場のシェフやパティシエ・パティシエールによる特別招聘授業の実施や、インターシップの実施など現場とつながる実践的な教育活動の実施</p>	<p>進路学習の実施 学長講演、ゲストティーチャーによる授業の実施 受験結果の整理と情報提供 放課後や休暇中の補習の立案、実施</p> <p>求人票の整理・資料化と情報提供の実施</p> <p>特別招聘授業の実施 インターンの実施</p> <p>適切なチェック体制の構築・実行</p>	<p>(1) (2) (3) (4) 総合的な探究の時間において、進路ガイダンス・学部学科を調べよう・系列大学説明会など様々なテーマを通じて進路に対する知識と意識を向上させた。また、系列校や協定校による講義を実施することで、学問分野や卒業後の新たな学びについて知見を増やすとともに、コース別活動の場面や「総合的な探究の時間（分野別）」において、現在の学びと将来の学びを結びつけるよう各コースや系統の目的に沿ったゲストティーチャーによる学びを実施、より具体的な進路選択となるよう活動を行った。指定校・協定校の情報は、職員室前に掲示し、新着情報を随時更新することで、3年生のみならず、1、2年生が足を止め話題にする機会も増え、進路意識向上の機会ともなっている。協定校も新規も含め充実してきており、多様な選択肢を示すことが出来た。進学先は4年制大学・短期大学・専門学校と多岐にわたっており、進学方法も協定校・指定校推薦、総合型選抜、学校推薦型選抜での進学がほとんどであったが、4年制大学では「行きたい大学・学部」に進学するため総合型・学校推薦型に挑戦する傾向が強まっている。学校として、こうした生徒の流れをサポートするため、3年生向けの補習をコース別ではなく、受験科目や受験したい学校のレベルに即した編成に変更した。今後も、指定校・協定校による推薦入試を軸としつつ、学力等で受験する生徒への組織的・継続的な指導を行っていく。一方で大阪商業大学・神戸芸術工科大学へ進学する生徒も徐々に増えてきているが、今後は総合進学コースの系統別の学びを軸に魅力を打ち出し、進学者を更に増やしていけるよう、取り組みを強化していく。</p> <p>(5) 求人票を業種別にファイルにまとめ、進路指導部・担任で繰り返し丁寧な面接指導を行った。一方で企業訪問を含め、生徒の希望と企業とのマッチングを丁寧に図ること、早期離職を防ぐなど就職後の状況も踏まえた活動を行ってきた。特に調理製菓科の就職においては、高校求人を出していないケースも多く、求人票の送付まで時間がかかった事象もあり、生徒本人・保護者が不安に感じることもあった。進路保障の観点からも粘り強く、求人票の依頼を行う必要は今後も続けなければならない。 （1）～（5）に関連【教員は、進路について、総合の時間や個別面談を通じて情報を提供し、丁寧に指導している（2021 71.1%（生徒）69.5%（保護者））（2019→2021 61.0→71.0→71.1）】</p> <p>(6) 調理製菓科各コースにおいて特別招聘授業を実施。現場に立つシェフやパティシエ・パティシエールの技術を学ぶ機会を得た。コロナ禍にあり、計画したすべての企業において実施はできなかったが、インターシップやマナー講座に伴う現場見学など、校外での学びの機会を準備し、参加を促した。これらの経験をふまえ、就職希望先としてインターシップ先であったり、同様の職種・業態を希望する生徒も増えており、キャリア育成でも効果をあげている。</p> <p>(7) 生徒の身分にかかわる重要な書類であり、瑕疵があってはならないことをふまえ、十分な確認を行った結果、特に問題は発生しなかった。</p>
---	---	---	--	---

その他	<p>(1) 保護者会との連携をさらに強化し、保護者からの貴重な意見を教育・指導・広報に役立てていく。</p> <p>(2) 美化に繋がる方策を教職員と生徒で熟考し、新たな取り組みを実践していく。</p> <p>(3) 新型コロナウイルス感染防止・防犯等への対応を含めた健康管理に繋がる対策をさらに講じていく。</p> <p>(4) 教職員の健康保全・危機管理対策について常に留意しながら、適正に運用していく。</p> <p>(5) 教育的期待に応え、増加する募集定員の充足を果たすために、構想した将来構想を教職員の知恵と協力を結集させて誠実に実践していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会との協力と連携 ・各種通信やお知らせ、さくら連絡網やHPなど様々な手段を通じ、学校の情報を積極的に発信し、学校の状況を周知していく ・環境美化活動を企画・実施 ・美化意識の向上 ・教育環境づくりの意識涵養 ・感染防止に係る情報の収集や感染状況の適切な把握を行う ・対応の変更については適宜情報を発信していく ・保健だより等を適宜発信し、時機合わせ必要な情報を提供していく ・緊急物品の更新を実施する ・講習会等の実施 ・特に行事における危機管理について共通認識を持ち実行に移していく ・教職員の勤務状況に留意しつつ、一部教職員に過度の負担がかからないよう、運営を図る ・定例会議での議事録の閲覧による問題意識の共有化 ・必要に応じて管理職が各分掌会議等に参加 	<p>年複数回実施 情報の積極的な発信</p> <p>学校全体で行う定期的な清掃活動の実施</p> <p>情報収集・集約の実施 情報提供の実施 適宜購入</p> <p>行事における校門等での巡視・立ち番の実施 各種イベントの教員配置の適正化</p> <p>適宜実施</p>	<p>(1) 感染防止対策として手指消毒スタンド10台（うち5台はサーモカメラ付き）を購入していただいた。また次年度コーラス大会にとキーボード、ラジカセを各5台購入していただいた。上期に延期としていた活動企画は感染対策を講じつつ、11月に料理教室と製菓教室、12月に手芸教室を開催した。保護者会役員会・実行委員会に管理職も参加し、様々なご意見をいただく機会とした。また、さくら連絡網やHPを利用し、積極的な情報発信を行い、コロナ禍で見えにくくなりがちな学校の状況を保護者に伝えていった。結果として非常に高い評価を保護者よりいただいている。 【学年通信やお便り、ホームページ等で、生徒・保護者への連絡や学校の様子をお知らせしている（2021 72.0%(生徒)83.0%（保護者））（2019→2021（保護者） 63.0→76.0→83.0）】</p> <p>(2) 教員・生徒会を中心に、ホームルーム教室のみならず、廊下や特別教室の清掃、整理・整頓、教室掲示物の更新などに努めるよう指導を行ってきたが、全校あげての活動がなかなか実施できず、教室の清掃状況には、クラスによって差も見られた。清潔で整頓された教室は、落ち着いて授業を受ける前提であり、担任を通してクラスに徹底を図りたい。</p> <p>(3) 感染状況の把握は担任・クラブ顧問を通じ管理職で一元的に実施し、出校停止や学級閉鎖等に関する判断を適宜行った。一部教室で学級閉鎖が発生したが、学内における教育活動下での感染拡大はほぼなかった。また、朝終礼等での担任からの指導のみならず、保健室からも保健だよりを発行し、新型コロナウイルス感染防止の重要性を伝えていった。さらに、コロナ禍に伴う生徒の不安に対応するため、カウンセラー対応の充実、カウンセラーからのお知らせの発行を行うなど、身体のみならず精神的なケアにも取り組んだ。また、クラブ活動時間や生徒の下校時間を徹底するなど、安全安心な環境作りに取り組んだ。コロナ禍ではあったが、教員対象 AED 講習会やエピペンの講習など生徒の安全にかかわる講習を実施し、救急救命の基本を学んだ。対面型の講演会について例年どおりの実施は難しかったが、DVD や別教室への配信など感染防止対策を施し、「ネットトラブル防止に向けて」、「自転車安全運転」、「性教育」、「薬物乱用防止」などの各種講演会を行い学習の機会を持った。 【保健便りや掲示等で保健室・カウンセラーの利用と健康促進を促し、生徒の健康維持を支援している（2021 62.5%（生徒）67.9%（保護者））（2019→2021（生徒） 58.0→65.0→62.5）】</p> <p>(4) 募集イベント、公開行事などの際に警備体制の強化について、管理職を中心に協議し、警備員、事務所を交えて危機管理について共有し、全教職員で実行した。学校周辺との関係は教頭が中心に情報共有を図り、一貫した対応策を構築、信頼関係を築いた結果、苦情件数は減少している。また、休日等実施されるイベントにおける出勤の均等化を図るなど、業務の平準化を目指しているが十分ではなく、今後も対応していく必要がある。</p> <p>(5) 「食と農マネジメント」の新設に続き、系列大学との繋がりを活かした「ビジネスと情報」系統について、大学関係者と意見交流を図るなど具体化に着手し、総合進学コースの柱の一つとすべく詳細を詰めている。この過程で、総合進学コース委員会や進路指導部などとも意見交流を行うなど、多くの教員が関与しながら進んでいる。募集定員充足に向け普通科の強化は必須であり、引き続き将来構想実現に向け取り組んでいく。</p>
-----	---	---	--	--

大阪緑涼高等学校「令和3年度 学校評価に係る外部評価者会議」議事録

日 時：令和4年10月3日（月）12時00分～13時45分
場 所：事務棟3階 第一会議室
出席者：藤井寺市教育委員会 教育長 濱崎 徹
藤井寺市区長会 会 長 上田 裕彦
辛国神社 宮 司 伊藤 進
大阪緑涼高等学校 校 長 星野 智子
大阪緑涼高等学校 教 頭 菊地 慎二
大阪緑涼高等学校 教 頭 松田 裕史
大阪緑涼高等学校 教頭補佐 渡邊 祐子
大阪緑涼高等学校 事務長 田中 学
欠席者：春日丘自治会 会 長 坂本 民雄
進行：教 頭 松田 裕史
記 録：事務室 片山 晶博、山崎 かほる

○自己紹介

本会議出席者より自己紹介を行った。

○校長挨拶

本会議参集に対する御礼と、本校の新たな学校作り等について様々な観点からご意見をいただきたいと述べられた。

○資料「令和3年度 大阪緑涼高等学校 学校評価」に基づき、菊地教頭より以下の報告が行われた。

1. 目指す学校像

資料をもとに以下8項目について詳細に説明が行われた。

- (1) 学ぶことの意義と楽しさを実感できる学校
- (2) 教養と知性の土台となる基礎学力をはぐくむ学校
- (3) 思いやりと礼節を重んじる心の教育を実践する学校
- (4) HR活動や学校行事・クラブ活動が活発で楽しく、成長できる学校
- (5) 生徒・保護者・教職員・地域が安心と信頼でつながりあえる学校
- (6) 南河内地域の豊かな自然や伝統・文化と出会い、学べる学校
- (7) 人が人として生きる権利が尊重され、いじめ・差別・暴力のない学校
- (8) 危機管理（新型コロナウイルス感染症対策・セキュリティ等含む）の重要性を理解し、安全のために予防対策を徹底して講じる学校

2. 中期目標

菊地教頭より、目指す学校像に基づき、具体化したものを中期目標として示していると述べた。

3. 評価年度の取り組み内容及び自己評価

菊地教頭より、評価年度の取り組み内容及び自己評価について以下のとおり説明が行われた。

「あなたは本校に入学してよかった・子どもを入学させてよかった」のアンケートについては、3年生においては生徒・保護者ともに3年間を通して本校の教育が理解され評価されている。しかし、特に2年生において肯定的評価が高くない。今後理由の検証を行い、1年間、2年間という単位で評価されるよう、学校全体として粘り強く生徒理解につながる教育を展開していくと説明がなされた。

(1) 学習指導

①「教員は、学習に関する質問や高校生活に関する相談等に丁寧に応じている」について、2020年度肯定的意見は生徒70.0%、保護者71.2%であったことに対し、2021年度肯定的意見は生徒69.6% 保護者69.8%と微減した。肯定的意見の微減と中間的回答の増加を踏まえ、コロナ禍による生徒の不安に寄り添いつつ、丁寧な聞き取り、相談を継続するとともに、組織的な対応のあり様について研鑽に努めたいと説明がなされた。

②「教員は、生徒の習熟度や様子を確認しながら、教科の目標に沿った分かりやすい授業を行っている」に対しては、2020年度肯定的意見は生徒においては69.5%であったが、2021年度肯定的意見は生徒62.2%と微減した。生徒・保護者が求める授業の質も変容していると考えられ、あらためて授業方法の改善、授業力の向上に取り組む必要があることが説明された。

③「教員は、生徒の基礎学力の定着と向上を図る様に授業を工夫し、補習や個別指導を行っている」について、2020年度肯定的意見は生徒71.0%、保護者63.3%であったことに対し、2021年度肯定的意見は生徒70.0% 保護者67.1%と保護者の評価が向上した。特に中学生時の学習範囲を手広くカバーする学び直しの取り組みについて評価が得られたものと説明があった。

④「教員は、英語検定や漢字検定など将来に必要な資格の情報を提供し、取得できるように指導・支援している」については、生徒・保護者ともに肯定的意見について前年度からの大きな変化はなかった。全コースにわたって各種検定取得の優位性が周知され、課外での個別指導等の評価が伴った結果と思われ、今後も質的向上を図っていききたいと説明がなされた。

(2) 生活指導

①「学校は、保健だよりや掲示等で保健室・カウンセラーの利用と健康促進を促し、生徒の健康維持を支援している」については、特にコロナ禍に不安を抱く生徒・保護者に対してのケアに努め、教員・管理職・学校医と相談しながら、罹患者と濃厚接触者について一人ひとりの状況に応じた対応を行った。今後も、保健室・カウンセラーと緊密な連携を重ね、相談だけでなく支援を手厚く行えるよう親身で手厚いサポー

トを行ってきたと説明がなされた。

②「教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけでなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している」については、2020年度肯定的意見は生徒においては65.8%であったが、2021年度肯定的意見は生徒66.5%と向上した。ホームルームの時間を出席確認と連絡事項の場にとどめることなく、生徒の相互理解につながる場としての活用が進んでおり、生徒の評価に少しずつつながったものと思われると説明がなされた。

③「緑涼祭や弁論大会、校外学習、芸術鑑賞、課外活動等、学校生活は楽しく充実している」について、2020年度肯定的意見は生徒において70.6%であったが、2021年度肯定的意見は生徒55.2%と大きく減少した。コロナ禍によりコーラス大会の中止や、緑涼祭の縮小などが大きな要因と思われる。やはり各行事等は実施を前提とし、実施するための方策を検討・実践する必要があると説明を行った。

④「教員は、充実したクラブ活動・生徒会活動等ができるように指導・支援している」については、2020年度肯定的意見は生徒において63.7%であったが、2021年度肯定的意見は生徒59.0%と減少した。理由としてはコロナ禍により活動への制限がかかり続ける状況で、従来以上に生徒相互、生徒と教員間でのコミュニケーションが図れなくなっており、従来の活動支援の見直しも必要であると説明がなされた。

⑤「学校は、遅刻や身だしなみ・頭髪について、適切な指導を行っている」については、評価は微減となったが、生徒が納得できる丁寧な説明を心掛けている。今後は教員の対応や指導について単に違反の指摘だけでなく、「何が」「なぜ」だめなのかを生徒自身が考え、理解につなげる指導を目指していきたいと説明がなされた。

⑥「学校は、いじめ防止のためにアンケート等で実態を把握し、迅速に問題を把握するとともに、生徒には悩みを聞き、保護者と連携して丁寧な対応をしている」については、去年に比べ肯定的意見が減少しており、また50%強という結果について、今後も対応方針の改善が必要と思われる。特に同問題については生徒・保護者・学校との齟齬のない深い理解における対応が必要であり、改善に向けて真摯に取り組むたいと説明がなされた。

⑦「学校は、人権について生徒の意識が高まる様に講演会や日々の教育を通じて指導している」については、ここ数年で肯定的意見が増加・定着しており、今後も生徒にとって高い人格形成につながるよう努めたいと説明がなされた。

(3) 教員研修

①「学校は、建学の理念や教育目標を分かりやすく示し、教育に反映させている」については、生徒・保護者の一定の理解は得られており、今後も建学の理念を生徒が具体的に実感できる取り組みを行いたいと説明がなされた。

(4) 進路指導

①「教員は、進路について、総合の時間や個別面談を通じて情報を提供し、丁寧に指導している」については、生徒・保護者ともに肯定的意見が高くなっており進路支援について実感があることが結果に出ている。自分のレベルに合った進路を探すのではなく、行きたい進学先を見つけて目指していくという意識が生徒の中で高まっていると説明がなされた。

(5) その他

①「学校は学年通信やお便り、谷学ネット、ホームページ等で、生徒・保護者への連絡や学校の様子をお知らせしている」については、生徒及び保護者の肯定的回答の水準が高く、学級通信・学年通信だけでなく、コロナ関連による緊急連絡・学校生活の様子等を発信してきた結果であると説明がなされた。

②「学校は、施設設備を適正に整備し、下校時間やクラブ活動時間を決めるなど、高校生活に支障がないように配慮している」については、一部防音性の高いサッシ(窓)に更新する等、地域に対しての防音に対する改善などを行った、日々の教育の中で今後も適切な配慮を行うとの説明がなされた。

菊地教頭の説明に続き、校長より補足があった。

③グラフを添付しているが、経年変化をご確認いただきたい。行事(修学旅行・緑涼祭文化の部)ができなかった前年度より微減になる項目があるが、2年前・3年前と比較すると全体を通して評価は上がっている。併せてご確認いただきたい。

○意見交換

菊地教頭からの説明終了後、外部評価者より、次のとおり質問・感想が述べられ、本校管理職と意見交換を行った。

質問……コロナにより高校教育現場も制限が厳しくなる中、本来生徒が経験すべき教育内容(文化祭・体育祭)をいかにしてカバーしましたか?

回答……評価年度はコロナ禍により、多くの教育活動に制限がかかり、文化祭については中止するなど、生徒にとっても辛い年度となった。しかしながら、クラスターを避け、活動制限内において冷静な状況判断に努めてきたので、今年度はコーラス大会を無事に開催できた。安易な中止という判断の前に、規制の中でベストな教育を行うことを今後も続けたい。

質問……コロナ禍において、それを理由にイベントを制限(延期・中止)するといった判断が、イージーな行為と捉えられかねないのは気にならなかったですか?

回答……行動制限と対応について「正解」が無い中で、どうすれば実践できるかという前向きな検討を重ねて、生徒のために実行することに努めたので問題ないと思います。

意見……コロナを理由にイベントの中止や会場を閉鎖する場面が増えている、教育機関としてのイベントの意義を見直す段階に来ていると思われる。

コロナで生徒・学校が苦しいこの時期をどのようにチャンスに生かすかを検討いただきたい。そしてその機会に生徒の心の成長を促す場が欲しいと思います。現代社会は多様性を認める傾向にあるが、一方で「他人と異なる」ことを否定的に捉えて、それがいじめにつながっている社会的な状況もある。緑涼高校は、心の成長を促す教育を引き続き行っていただきたい

意見……「不易流行」という言葉があり、その考えに基づき、緑涼高校の建学の精神をもって、豊かな生徒をはぐくんでほしいと思います。

意見……先日の緑涼祭（文化祭）において吹奏楽部の演奏を見学しました。この部活が立ち上げとなった頃から見えていますが、この短い期間でよくここまで成長されたと感じています。

一方で茶道の対応が、もう少しお点前を大切にしていきたいと思いました。しかし、校内を回り、多くの木々の剪定や配置にも気を遣われているキャンパスで、良い高校だと改めて思いました

意見……画一的な授業の提供だけでなく、学ぶことの意義も生徒の皆さんに知ってもらいたい。「人はなぜ学ぶか」に対し、学校がどう寄り添っていかかが大切です。

先ほどの自己評価において、行ける学校選びから、行きたい学校の発見とその夢を目指す進学意識の芽生えは素晴らしいと感じました。

また、緑涼高校の生徒皆さんには自分の幸せのために学ぶだけでなく、社会をいかに幸せにするかを考えられる人になってもらいたいと思います。

質問……以前の大阪女子短期大学高等学校から緑涼高等学校に生まれ変わってから、新しい名称は浸透していますか？近隣中学からの生徒は増えていますか？

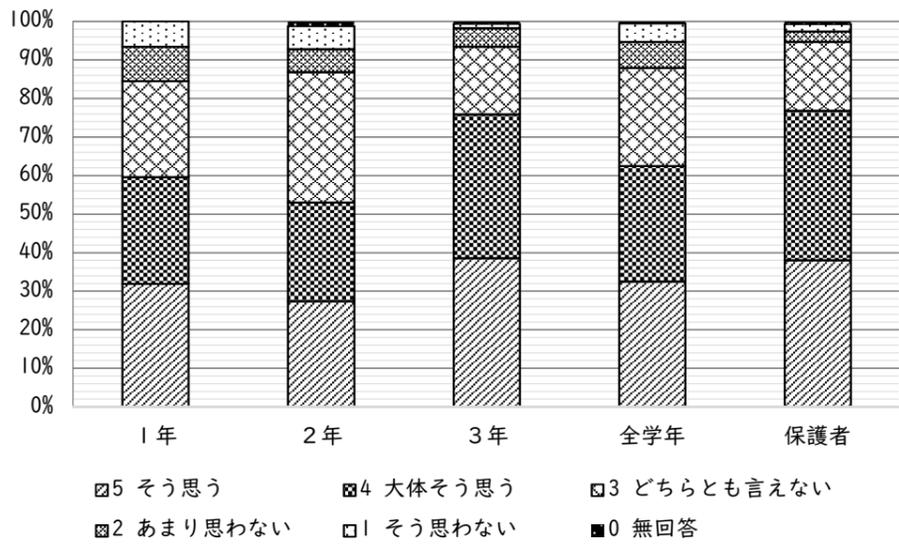
回答……「緑涼高等学校」の名称は当初は浸透させるのに時間を要しました。しかしながら評価や知名度は年々向上していると実感でき、南河内でもかなり受験者数の多い高校であると認識しています。手厚い指導の評判は上がっており、さらにその指導内容も年々充実させており、さらに飛躍できると考えます。

以上

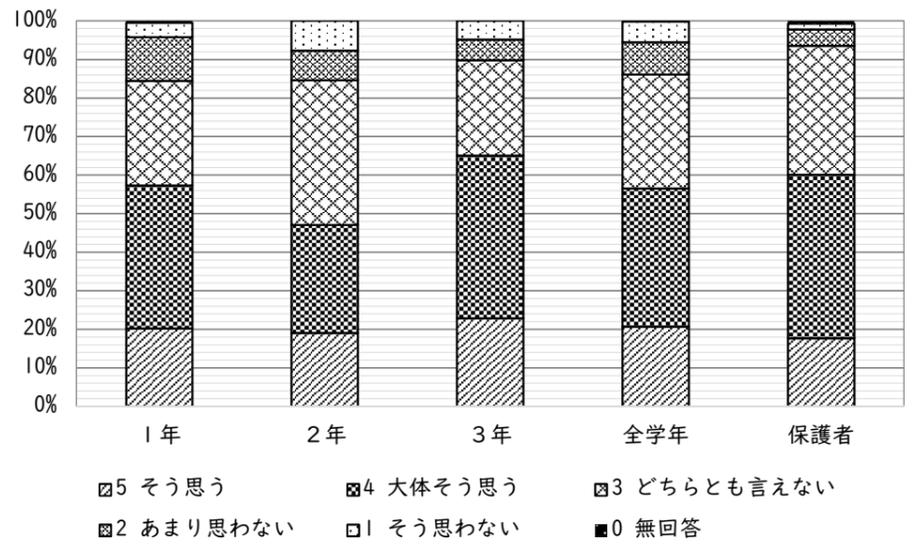
2021年度 学校評価アンケート集計（設問は、保護者向けのものを使用しています）

設問	学年	5	4	3	2	1	0	-	+
		そう思う	大体そう思う	どちらとも言えない	あまり思わない	そう思わない	無回答		
1 あなたは本校に入学してよかった 子どもを本校に入学させてよかった	1年	31.9%	27.7%	24.9%	8.9%	6.6%	0.0%	15.5%	59.6%
	2年	27.4%	25.6%	33.8%	6.0%	6.0%	1.2%	12.0%	53.0%
	3年	38.6%	37.3%	17.5%	4.8%	1.2%	0.6%	6.0%	75.9%
	全学年	32.5%	30.0%	25.4%	6.8%	4.8%	0.5%	11.6%	62.5%
	保護者	38.0%	38.8%	17.9%	2.7%	1.9%	0.7%	4.6%	76.8%
2 学校は、建学の理念や教育目標を分かりやすく示し、教育に反映させている	1年	20.2%	37.1%	27.2%	11.3%	3.7%	0.5%	15.0%	57.3%
	2年	19.1%	28.0%	37.5%	7.7%	7.7%	0.0%	15.4%	47.1%
	3年	22.9%	42.2%	24.7%	5.4%	4.8%	0.0%	10.2%	65.1%
	全学年	20.7%	35.8%	29.6%	8.4%	5.3%	0.2%	13.7%	56.5%
	保護者	17.7%	42.4%	33.4%	4.3%	1.5%	0.7%	5.8%	60.1%
3 学校は、学年通信やお便り、ホームページ等で、生徒・保護者への連絡や学校の様子をお知らせしている	1年	35.2%	35.7%	23.0%	4.2%	1.9%	0.0%	6.1%	70.9%
	2年	33.3%	38.1%	21.4%	4.2%	3.0%	0.0%	7.2%	71.4%
	3年	34.9%	39.2%	19.3%	5.4%	1.2%	0.0%	6.6%	74.1%
	全学年	34.6%	37.4%	21.4%	4.6%	2.0%	0.0%	6.6%	72.0%
	保護者	39.2%	44.1%	13.1%	3.4%	0.2%	0.0%	3.6%	83.3%
4 学校は、保健便りや掲示等で保健室・カウンセラーの利用と健康促進を促し、生徒の健康維持を支援している	1年	24.9%	35.2%	29.1%	6.6%	4.2%	0.0%	10.8%	60.1%
	2年	26.2%	31.5%	36.3%	4.8%	1.2%	0.0%	6.0%	57.7%
	3年	30.7%	39.8%	22.3%	5.4%	1.8%	0.0%	7.2%	70.5%
	全学年	27.1%	35.4%	29.3%	5.6%	2.6%	0.0%	8.2%	62.5%
	保護者	24.5%	43.4%	28.1%	3.1%	0.7%	0.2%	3.8%	67.9%
5 教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけではなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している	1年	29.1%	33.8%	24.9%	6.1%	6.1%	0.0%	12.2%	62.9%
	2年	33.3%	27.4%	30.4%	7.1%	1.8%	0.0%	8.9%	60.7%
	3年	36.1%	41.0%	18.1%	4.2%	0.6%	0.0%	4.8%	77.1%
	全学年	32.5%	34.0%	24.5%	5.9%	3.1%	0.0%	9.0%	66.5%
	保護者	22.5%	40.7%	30.3%	4.8%	0.2%	1.5%	5.0%	63.2%
6 教員は、学習に関する質問や高校生活に関する相談等に丁寧に応じている	1年	32.9%	34.3%	25.8%	4.7%	2.3%	0.0%	7.0%	67.2%
	2年	34.5%	32.7%	26.8%	3.6%	1.2%	1.2%	4.8%	67.2%
	3年	37.3%	38.0%	20.5%	3.0%	1.2%	0.0%	4.2%	75.3%
	全学年	34.7%	34.9%	24.5%	3.9%	1.6%	0.4%	5.5%	69.6%
	保護者	31.0%	38.8%	25.9%	2.9%	1.2%	0.2%	4.1%	69.8%
7 教員は、生徒の習熟度や様子を確認しながら、教科の目標に沿った分かりやすい授業を行っている	1年	19.2%	39.0%	26.8%	13.1%	1.9%	0.0%	15.0%	58.2%
	2年	24.4%	33.4%	34.5%	7.1%	0.6%	0.0%	7.7%	57.8%
	3年	27.7%	44.0%	25.3%	3.0%	0.0%	0.0%	3.0%	71.7%
	全学年	23.4%	38.8%	28.7%	8.2%	0.9%	0.0%	9.1%	62.2%
	保護者	17.2%	42.1%	32.5%	6.3%	1.9%	0.0%	8.2%	59.3%
8 教員は、英語検定や漢字検定や将来に必要な資格の情報を提供し、取得できるように指導・支援している	1年	32.9%	32.9%	27.7%	4.6%	1.9%	0.0%	6.5%	65.8%
	2年	35.7%	35.7%	25.0%	3.0%	0.6%	0.0%	3.6%	71.4%
	3年	30.1%	44.6%	21.1%	3.6%	0.6%	0.0%	4.2%	74.7%
	全学年	32.9%	37.3%	24.9%	3.8%	1.1%	0.0%	4.9%	70.2%
	保護者	25.7%	44.1%	23.7%	5.8%	0.7%	0.0%	6.5%	69.8%
9 教員は、生徒の基礎学力の定着と向上を図る様に授業を工夫し、補習や個別指導を行っている	1年	33.3%	35.2%	24.9%	6.1%	0.5%	0.0%	6.6%	68.5%
	2年	38.7%	33.3%	26.8%	1.2%	0.0%	0.0%	1.2%	72.0%
	3年	31.3%	38.6%	25.9%	4.2%	0.0%	0.0%	4.2%	69.9%
	全学年	34.4%	35.6%	25.8%	4.0%	0.2%	0.0%	4.2%	70.0%
	保護者	24.2%	42.9%	26.9%	3.9%	1.9%	0.2%	5.8%	67.1%
10 教員は、進路について、総合の時間や個別面談を通じて情報を提供し、丁寧に指導している	1年	30.5%	35.2%	28.2%	4.2%	1.9%	0.0%	6.1%	65.7%
	2年	37.5%	35.7%	24.4%	1.2%	1.2%	0.0%	2.4%	73.2%
	3年	42.8%	33.1%	21.1%	1.8%	0.6%	0.6%	2.4%	75.9%
	全学年	36.4%	34.7%	24.8%	2.6%	1.3%	0.2%	3.9%	71.1%
	保護者	27.1%	42.4%	24.9%	3.9%	1.2%	0.5%	5.1%	69.5%
11 緑涼祭や弁論大会、校外学習、芸術鑑賞、課外活動等、学校生活は楽しく充実している	1年	23.9%	28.6%	25.8%	12.7%	9.0%	0.0%	21.7%	52.5%
	2年	24.4%	28.0%	33.3%	8.9%	5.4%	0.0%	14.3%	52.4%
	3年	31.3%	30.2%	25.9%	8.4%	4.2%	0.0%	12.6%	61.5%
	全学年	26.3%	28.9%	28.2%	10.2%	6.4%	0.0%	16.6%	55.2%
	保護者	21.3%	33.9%	30.0%	9.5%	5.3%	0.0%	14.8%	55.2%
12 教員は、充実したクラブ活動・生徒会活動等ができるように指導・支援している	1年	22.5%	35.7%	29.6%	7.5%	4.7%	0.0%	12.2%	58.2%
	2年	32.7%	24.4%	35.1%	4.8%	3.0%	0.0%	7.8%	57.1%
	3年	28.3%	33.8%	30.1%	4.2%	3.0%	0.6%	7.2%	62.1%
	全学年	27.4%	31.6%	31.4%	5.7%	3.7%	0.2%	9.4%	59.0%
	保護者	18.9%	33.9%	35.9%	7.0%	3.1%	1.2%	10.1%	52.8%
13 学校は、遅刻や身だしなみ・頭髪について、適切な指導を行っている	1年	26.8%	31.5%	23.0%	10.8%	7.9%	0.0%	18.7%	58.3%
	2年	26.8%	21.4%	36.9%	6.6%	8.3%	0.0%	14.9%	48.2%
	3年	22.3%	27.7%	30.1%	12.7%	7.2%	0.0%	19.9%	50.0%
	全学年	25.4%	27.2%	29.4%	10.1%	7.9%	0.0%	18.0%	52.6%
	保護者	20.3%	40.0%	29.1%	6.5%	4.1%	0.0%	10.6%	60.3%
14 学校は、いじめ防止のためにアンケート等で実態を把握し、迅速に問題を把握するとともに、生徒には悩みを聞き、保護者と連携して丁寧な対応をしている	1年	24.4%	23.0%	38.5%	9.9%	4.2%	0.0%	14.1%	47.4%
	2年	22.6%	31.5%	38.1%	4.2%	3.6%	0.0%	7.8%	54.1%
	3年	27.7%	31.9%	31.9%	6.0%	1.9%	0.6%	7.9%	59.6%
	全学年	24.9%	28.3%	36.4%	6.9%	3.3%	0.2%	10.2%	53.2%
	保護者	15.8%	36.1%	40.7%	4.8%	2.4%	0.2%	7.2%	51.9%
15 学校は、人権について生徒の意識が高まる様に講演会や日々の教育を通じて指導している	1年	32.4%	34.7%	24.9%	3.8%	4.2%	0.0%	8.0%	67.1%
	2年	25.0%	29.2%	37.5%	4.7%	3.6%	0.0%	8.3%	54.2%
	3年	28.9%	38.0%	28.3%	3.6%	0.6%	0.6%	4.2%	66.9%
	全学年	29.1%	34.0%	29.8%	4.0%	2.9%	0.2%	6.9%	63.1%
	保護者	17.7%	37.7%	39.0%	3.9%	1.7%	0.0%	5.6%	55.4%
16 学校は、施設設備を適正に整備し、下校時間やクラブ活動時間を決めるなど、高校生活に支障がないよう配慮している	1年	27.7%	33.3%	24.9%	7.5%	6.6%	0.0%	14.1%	61.0%
	2年	33.3%	26.2%	33.3%	5.4%	1.8%	0.0%	7.2%	59.5%
	3年	35.0%	36.1%	25.9%	2.4%	0.0%	0.6%	2.4%	71.1%
	全学年	31.6%	32.0%	27.8%	5.3%	3.1%	0.2%	8.4%	63.6%
	保護者	26.4%	41.7%	26.9%	3.1%	1.9%	0.0%	5.0%	68.1%

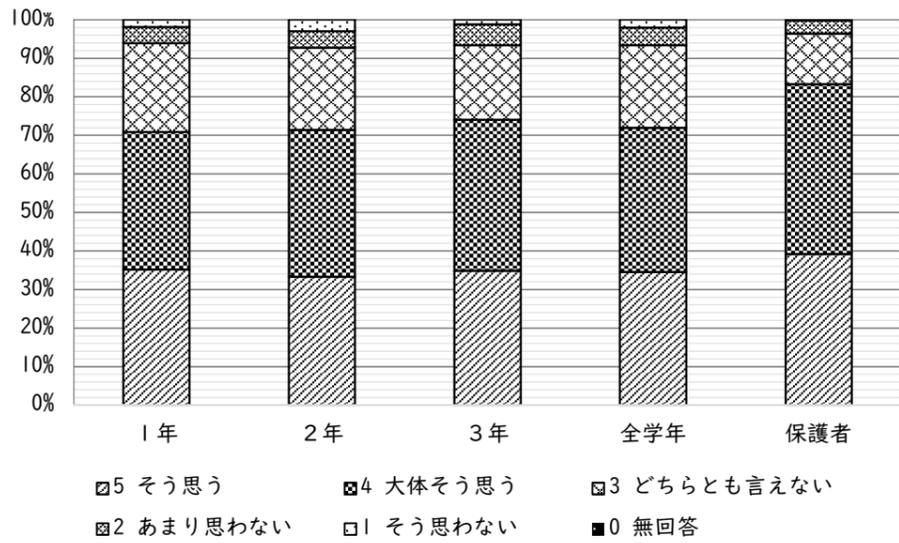
1. あなたは本校に入学してよかった
子どもを本校に入学させてよかった



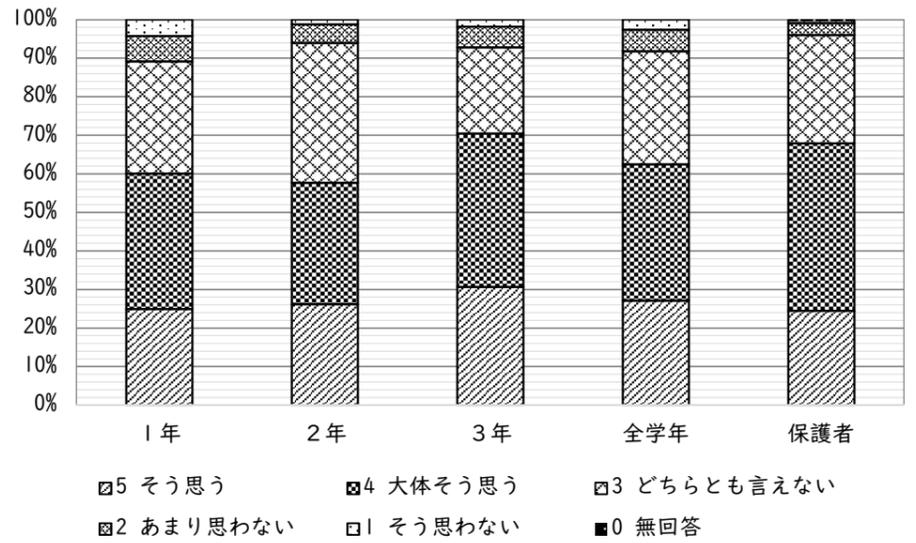
2. 学校は、建学の理念や教育目標を分かりやすく示し、教育に反映させている



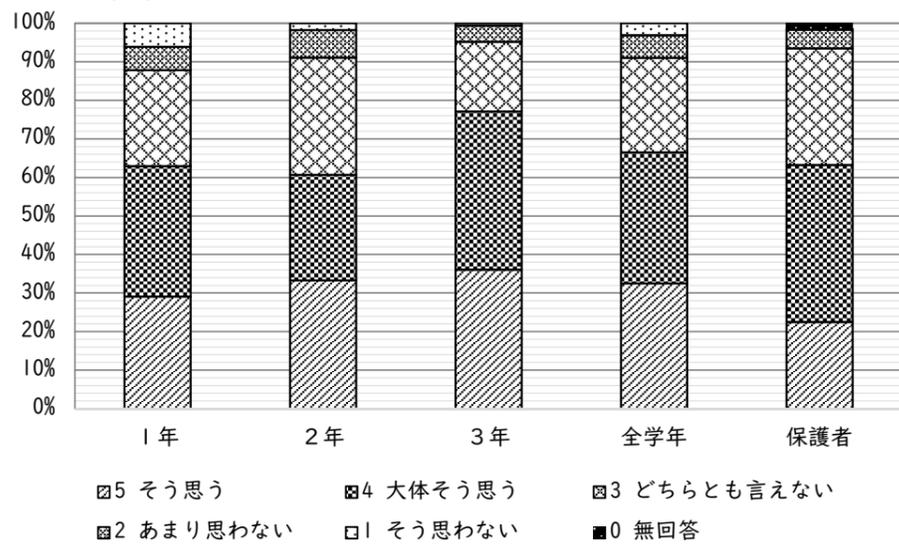
3. 学校は、学年通信やお便り、ホームページ等で、生徒・保護者への連絡や学校の様子をお知らせしている



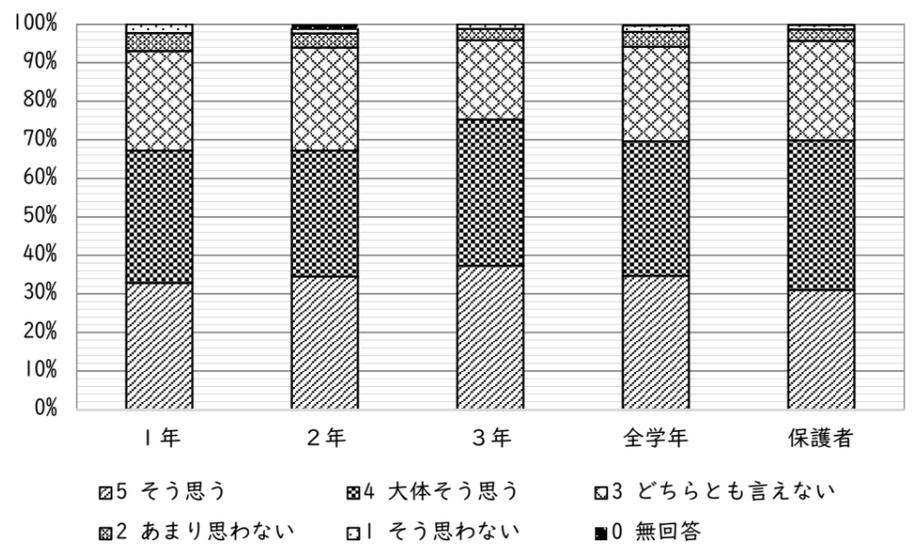
4. 学校は、保健便りや掲示等で保健室・カウンセラーの利用と健康促進を促し、生徒の健康維持を支援している



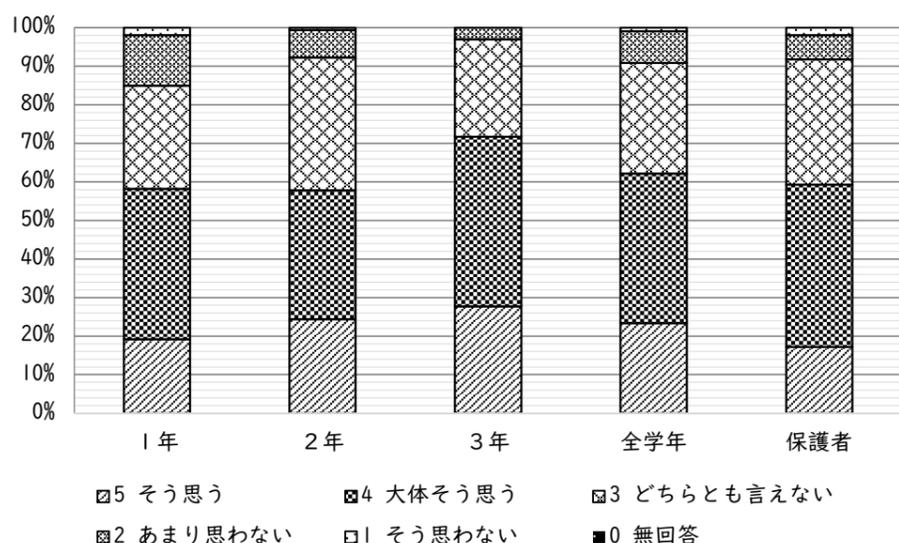
5. 教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけではなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している



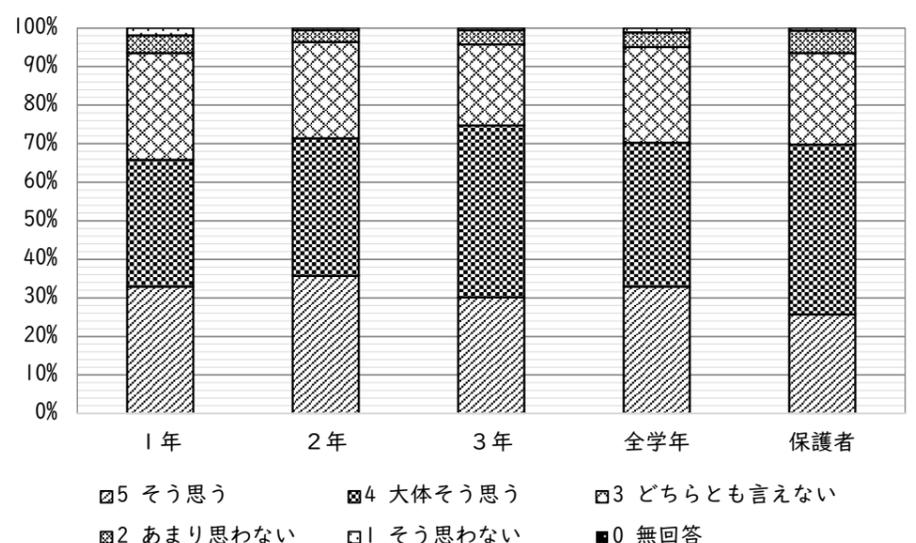
6. 教員は、学習に関する質問や高校生活に関する相談等に丁寧に応じている



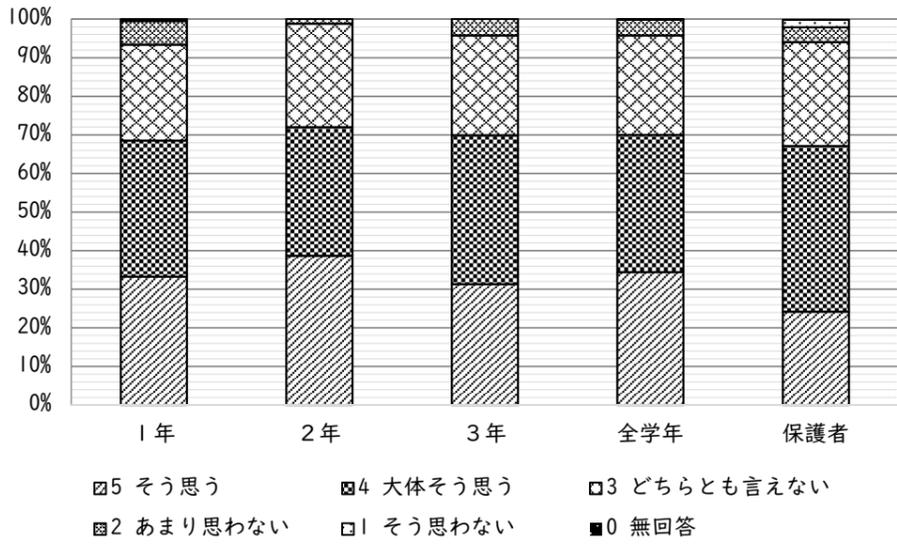
7. 教員は、生徒の習熟度や様子を確認しながら、教科の目標に沿った分かりやすい授業を行っている



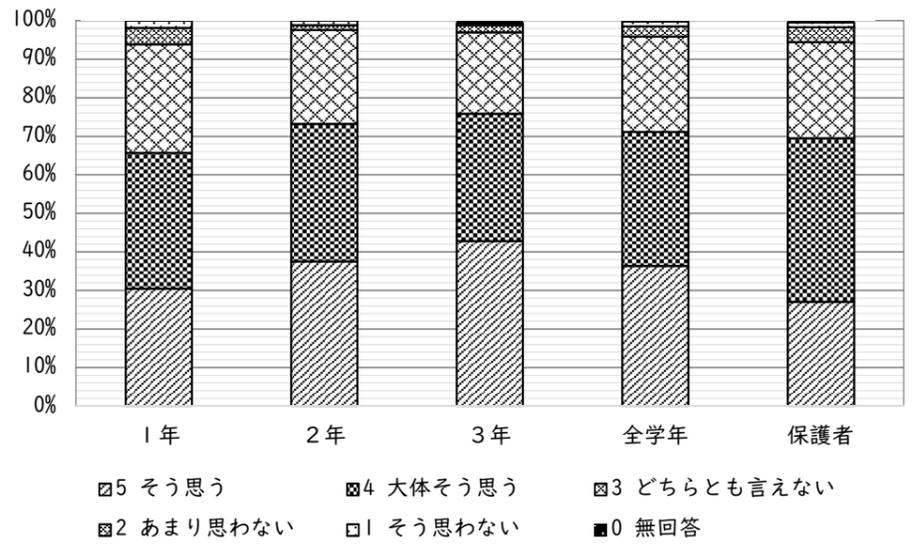
8. 教員は、英語検定や漢字検定や将来に必要な資格の情報を提供し、取得できるように指導・支援している



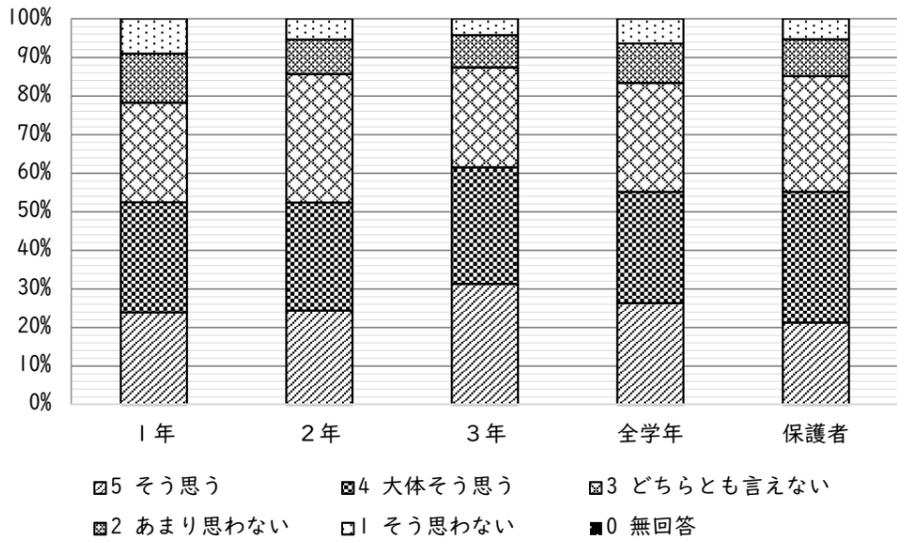
9. 教員は、生徒の基礎学力の定着と向上を図る様に授業を工夫し、補習や個別指導を行っている



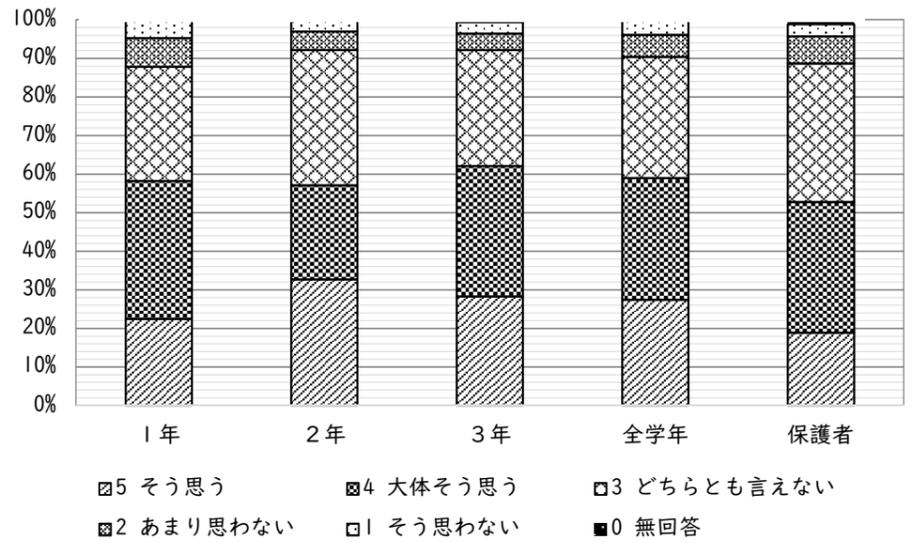
10. 教員は、進路について、総合の時間や個別面談を通じて情報を提供し、丁寧に指導している



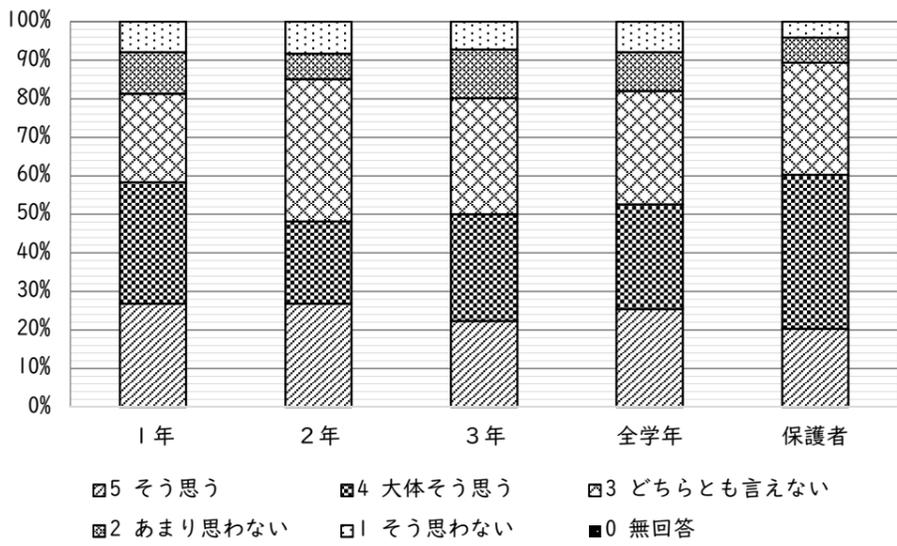
11. 緑涼祭や弁論大会、校外学習、芸術鑑賞、課外活動等、学校生活は楽しく充実している



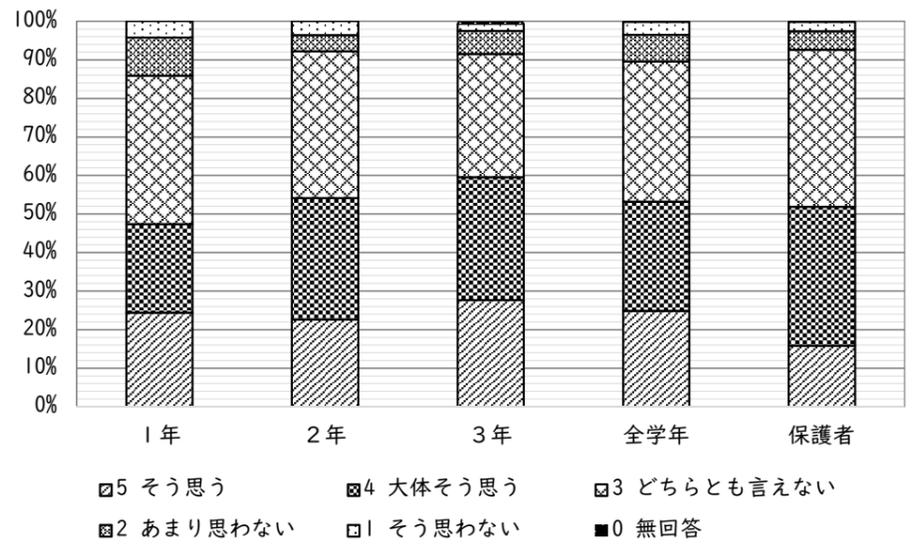
12. 教員は、充実したクラブ活動・生徒会活動等ができるように指導・支援している



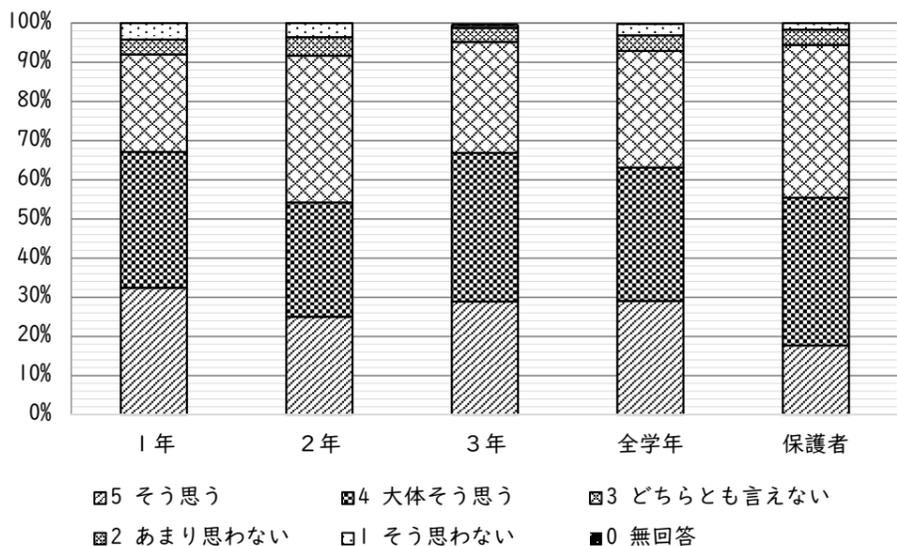
13. 学校は、遅刻や身だしなみ・頭髪について、適切な指導を行っている



14. 学校は、いじめ防止のためにアンケート等で実態を把握し、迅速に問題を把握するとともに、生徒には悩みを聞き、保護者と連携して丁寧な対応をしている



15. 学校は、人権について生徒の意識が高まる様に講演会や日々の教育を通じて指導している



16. 学校は、施設設備を適正に整備し、下校時間やクラブ活動時間を決めるなど、高校生活に支障がないよう配慮している

